

携帯電話（スマートフォン）利用実態調査 【分析】

1. 実施目的

携帯電話・スマートフォン・インターネットにまつわる問題が頻発するなか、児童生徒の危機管理能力・防犯能力を高める必要がある。しかし、多くの学校や家庭では、児童生徒の携帯電話等の利用の実態を把握できておらず、これらの問題の未然防止、早期対応に苦慮しているのが現状であり、利用実態調査を実施し、携帯電話等を適切に利用することができる子どもを育て、次世代を担う人材育成につなげる。

2. 実施期間

平成24年11月16日（金）～平成24年12月21日（金）

3. 実施方法

マークシート利用による無記名アンケート方式

4. 実施対象

国・公・私立学校における小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、専修学校の児童生徒・教員・保護者を対象とし、高知市及び高知市周辺、安芸市、四万十市から学校及び学年を県教委が選定する。

(1) 【小学校】

高知市・安芸市・四万十市の小学校のうち、原則として全校児童100名以上の学校を対象とし、対象校の第5学年又は第6学年の児童を調査の対象とする。また、教員については、当該学年に限らず、当該学校の教諭職を対象とし、保護者については、当該児童の保護者を対象とする。

(2) 【中学校】

高知市及び高知市周辺・安芸市・四万十市の中学校のうち、原則として全校生徒100名以上の学校を対象とし、対象校の1つの学年の生徒を調査の対象とする。また、教員については、当該学年に限らず、当該学校の教諭職を対象とし、保護者については、当該生徒の保護者を対象とする。

(3) 【高等学校】

高知市及び高知市周辺の全日制及び定時制の高等学校を対象とし、対象校の1つの学年の生徒を調査の対象とする。また、教員については、当該学年に限らず、当該学校の教諭職を対象とし、保護者については、当該生徒の保護者を対象とする。

(4) 【特別支援学校】

高知市及び高知市周辺の特別支援学校を対象とし、対象生徒については、高等部の生徒を調査の対象とする。ただし、生徒の状況等を考慮したうえ、可能な範囲内で実施する。また、教員については、高等部に限らず、当該学校の教諭職を対象とし、保護者については、当該生徒の保護者を対象とする。

(5) 【専修学校】

高知市内の学校を対象とし、全ての生徒を調査の対象とする。また、教員については、当該学校の教諭職を対象とし、保護者については、当該生徒の保護者を対象とする。

5. 回答者数

学校配付総数：29,345名 回答者数：22,616名（回収率77.1%）

有効回答者数：22,451名（有効率76.5%）

※有効回答者数内訳

【小学校】

児童：3,338名 教員：1,077名 保護者：2,769名

【中学校】

生徒：3,174名 教員：523名 保護者：2,247名

【高等学校】

生徒：4,583名（全日制） 生徒：165名（定時制）

教員：1,091名 保護者：2,943名

【特別支援学校】

生徒：101名 教員：299名 保護者：97名

6. 調査結果の活用

県教委及び県警が現状を把握し、携帯電話等に関する施策に生かす。

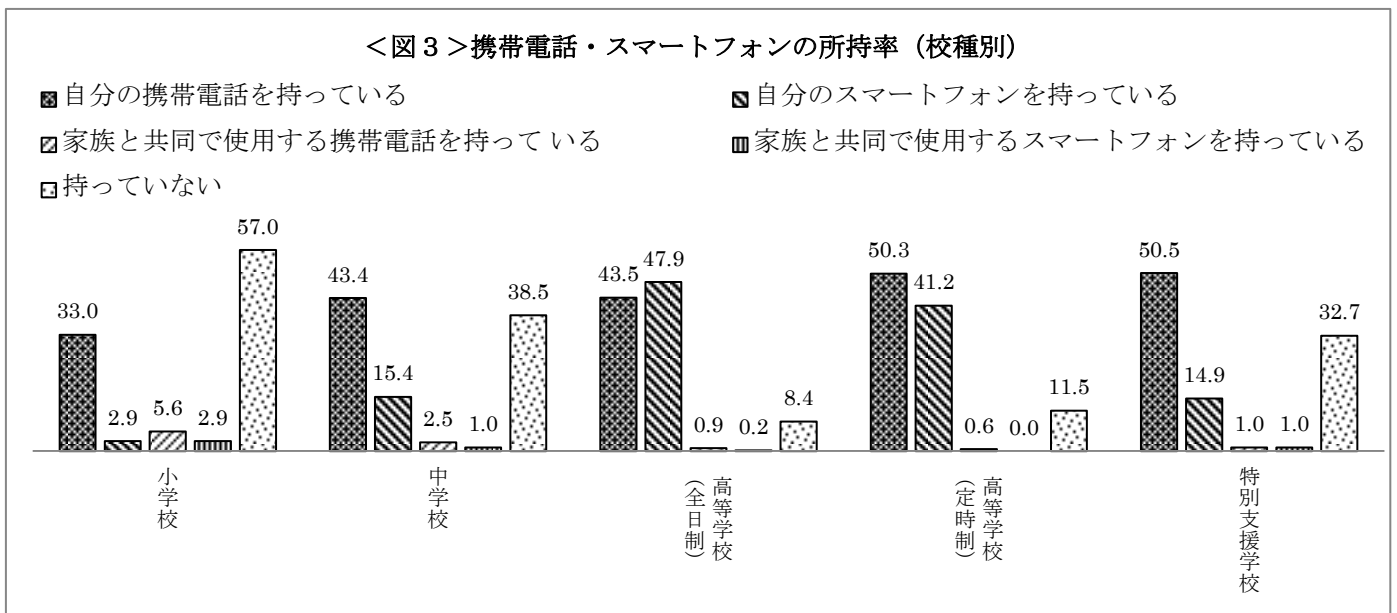
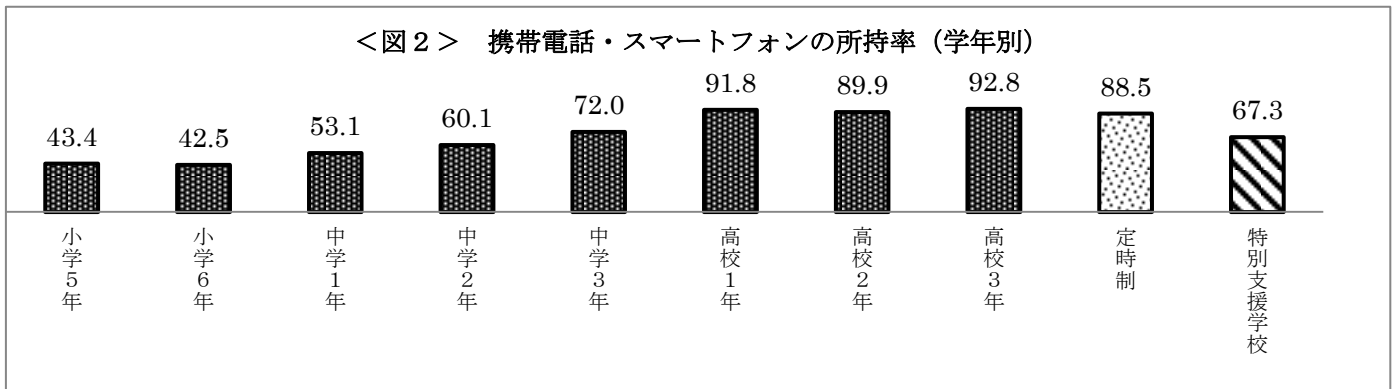
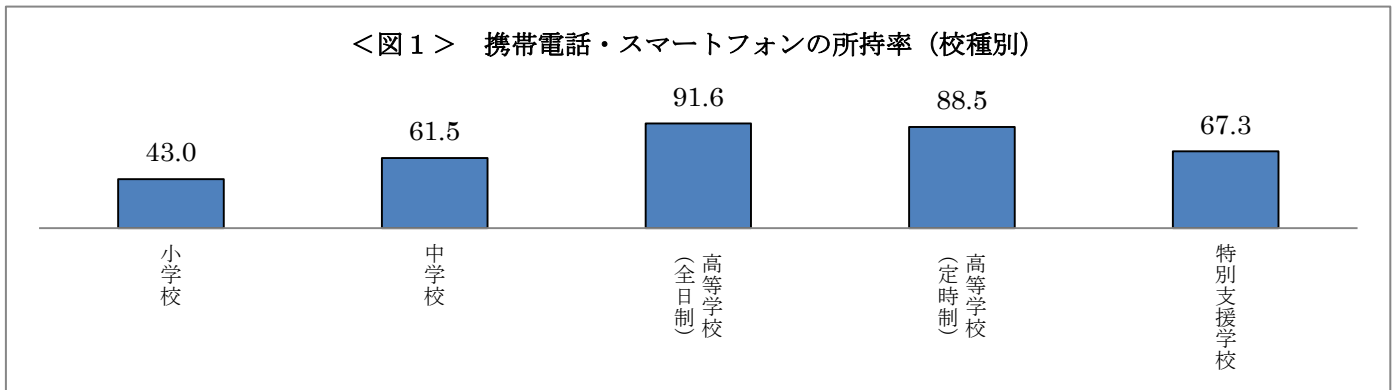
児童生徒及び保護者、教職員が携帯電話等の現状を把握するため、各学校に調査結果を周知する。

児童生徒・保護者・教職員へのインターネット関連教育を行うための資料に活用する。

【児童生徒】

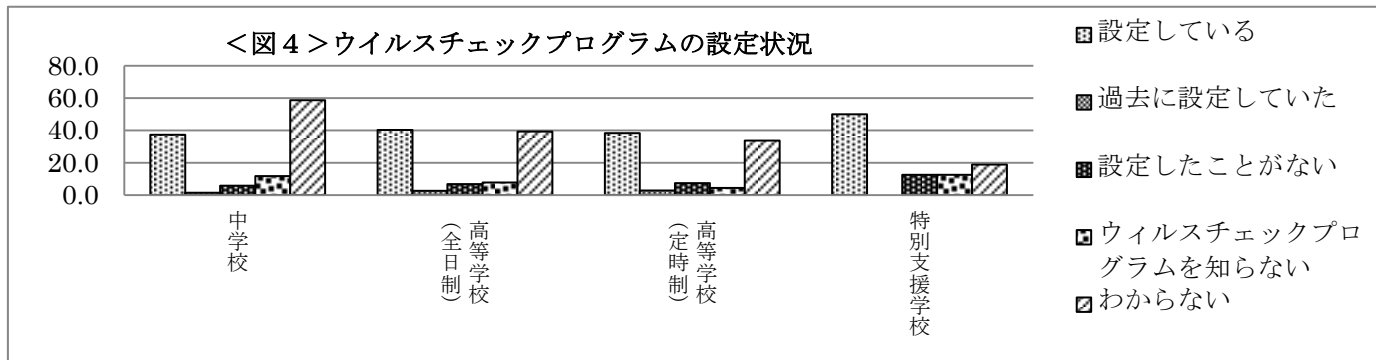
※設問によっては、無回答や重複回答がありますので調査数の合計と一致しない場合があります。
 ※数値は、%で算出しています。

(1) 児童生徒の携帯電話・スマートフォンの所持



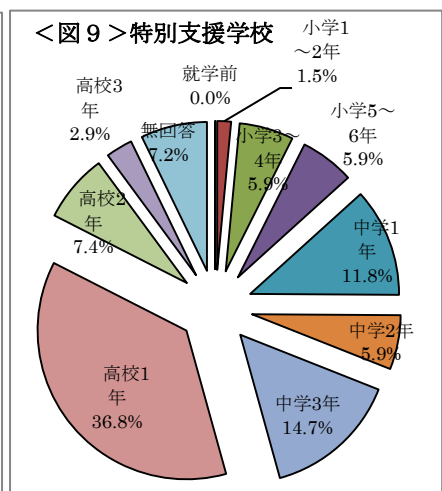
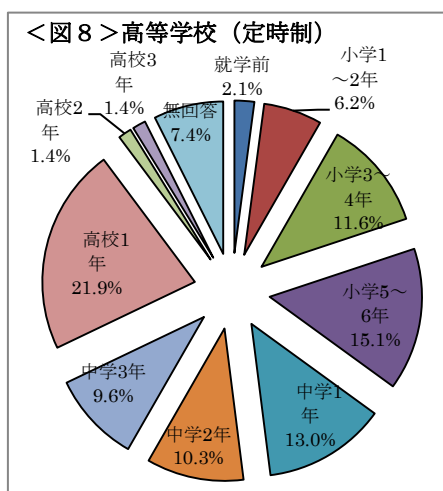
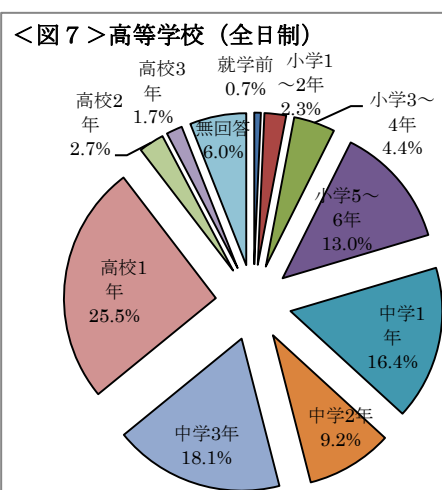
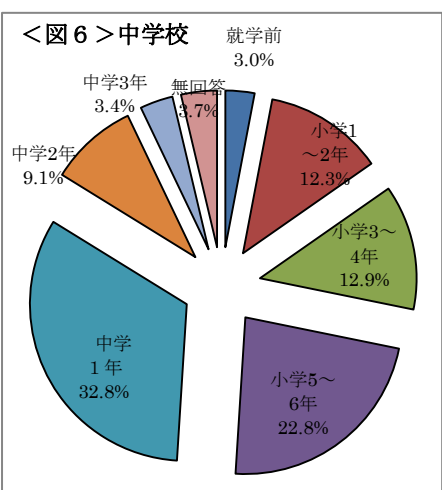
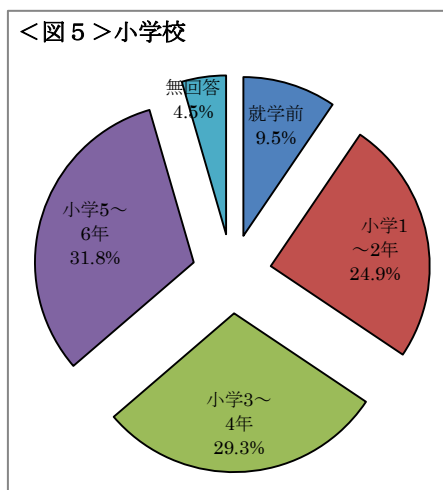
「携帯電話・スマートフォンの所持率」は、校種や学年が進むにつれて高くなる傾向が見られます。所持率の変動幅は、中学3年生から高校1年生にかけて、最も高くなっており、中学校卒業後又は高等学校入学後を節目に、携帯電話を所持するケースが多いことが考えられます。スマートフォンの所持においても同様の傾向が見られており、高等学校（全日制）では、携帯電話よりスマートフォンの所持率が高くなっています。

(2) スマートフォンを所持している児童生徒のウイルスチェックプログラムの設定状況
 ※小学生の調査には、該当する質問がないため、表記していません。



スマートフォンの所持が増加する傾向にあるなか、児童生徒が「ウイルスチェックプログラムを設定」している割合は、特別支援学校の50.0%が最も高く、すべての校種において、設定している割合は半数以下になっています。「わからない」「ウイルスチェックプログラムを知らない」と回答している割合からも、スマートフォンを所持するに当たり、個人情報流出する等の危機管理についての認識が低いことが考えられます。

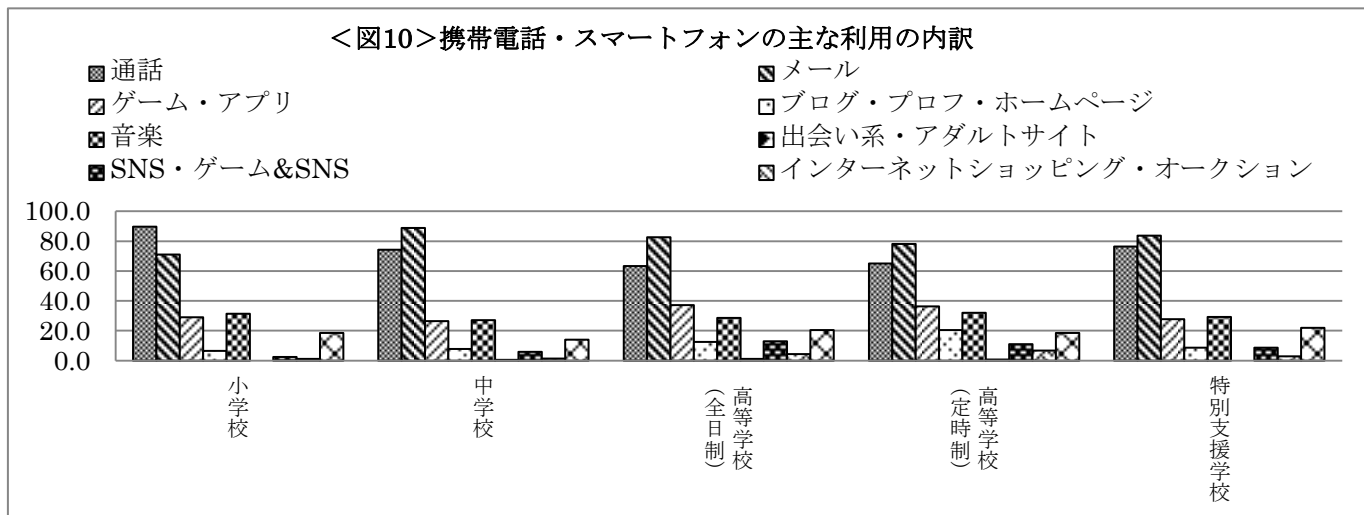
(3) 携帯電話・スマートフォンを所持した時期



「携帯電話・スマートフォンを所持した時期」について、小学校・中学校・高等学校(全日制)で比較すると、小学6年生以下の区分ごとの所持率は、校種を遡るにつれて高くなっており、携帯電話・スマートフォンの所持が低年齢化していることが考えられます。

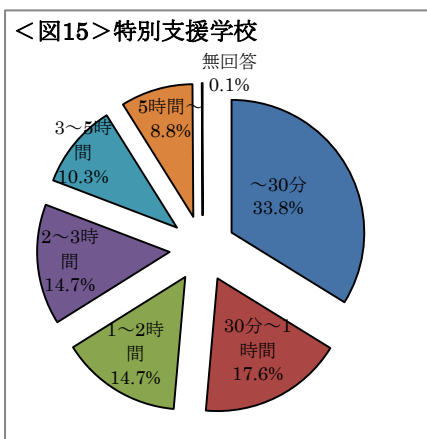
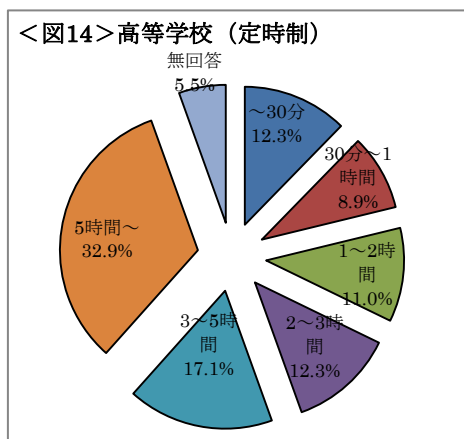
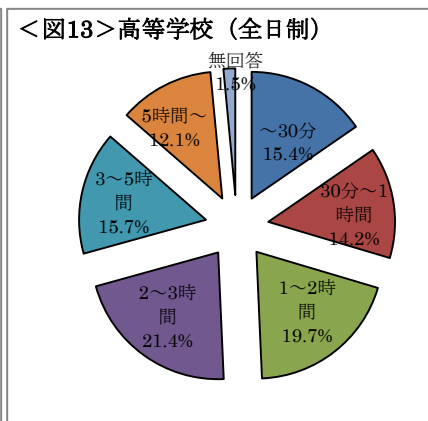
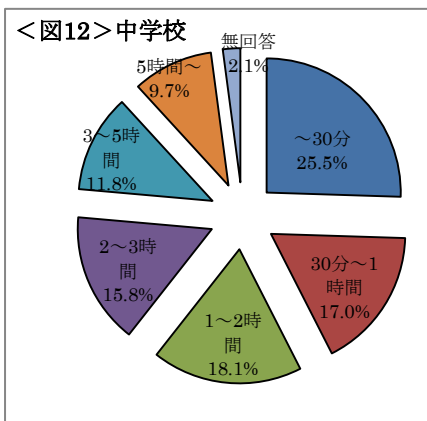
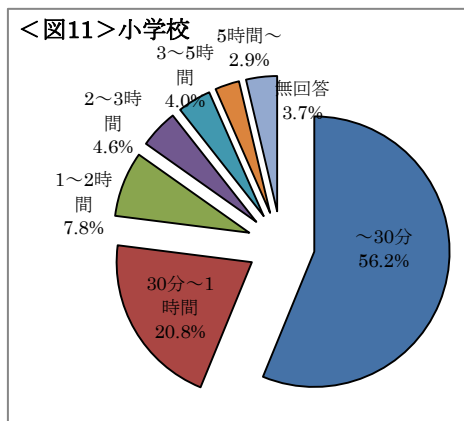
(4) 携帯電話・スマートフォンの主な利用

※小学生の質問には、「出会い系・アダルトサイト」の選択肢が存在しません。



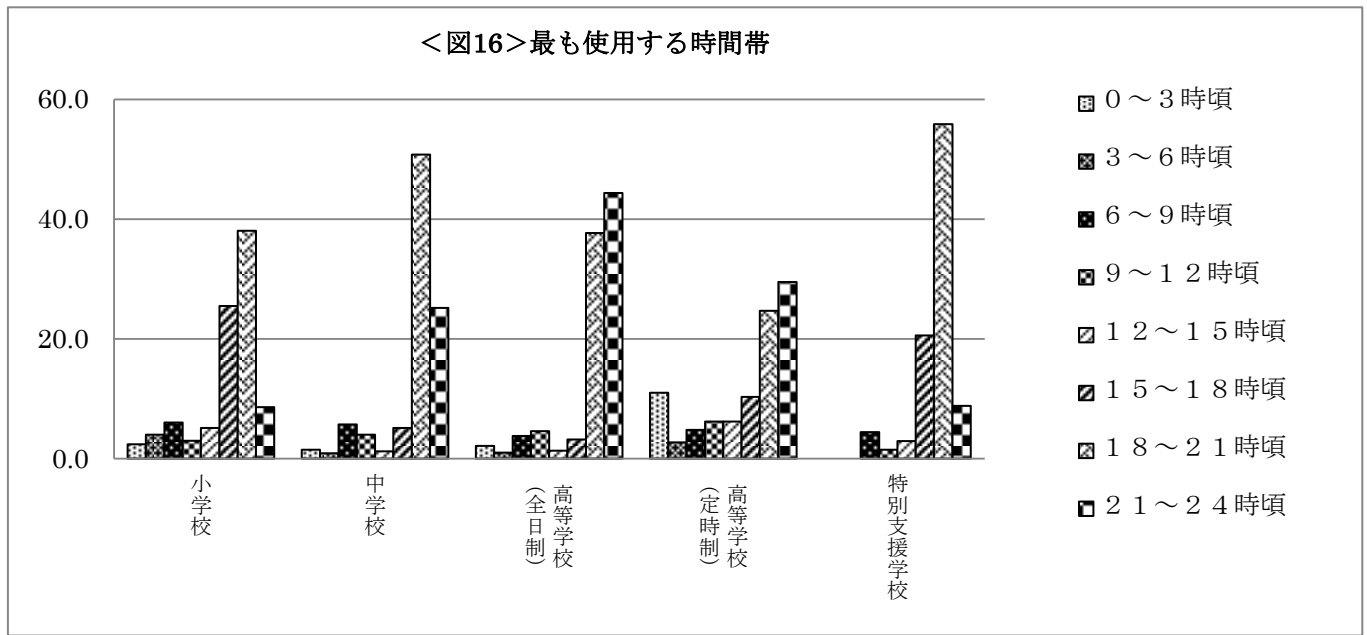
児童生徒の「携帯電話・スマートフォンの主な利用」については、すべての校種で、「通話」「メール」が突出して多く、小学校以外の校種では、「メール」が最も多くなっています。

(5) 一日に携帯電話・スマートフォンを使用する時間



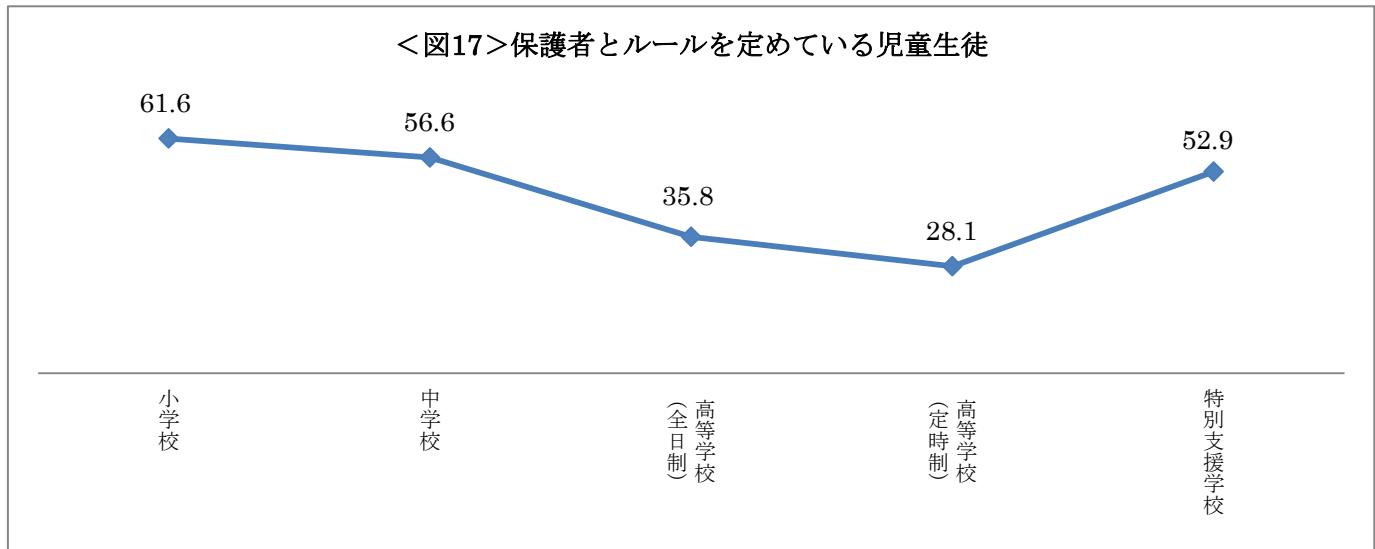
「一日に携帯電話・スマートフォンを利用する時間」は、小学校では使用する時間に偏りが見られるが、他の校種においては、使用する時間が分散しています。
また、「30分未満」「30分~1時間未満」においては、校種を遡るにつれて、割合が高くなっており、「1時間」以上の使用は、校種が進むにつれて、割合が高くなっています。

(6) 携帯電話・スマートフォンを一日の中で最も使用する時間帯



「携帯電話・スマートフォンを一日の中で最も使用する時間帯」で、割合が高いのは、小学校と特別支援学校では「15～18時頃」「18～21時頃」、中学校と高等学校は「18～21時頃」「21～24時頃」となっており、校種が進むにつれて、遅い時間帯に使用する割合が高くなっています。

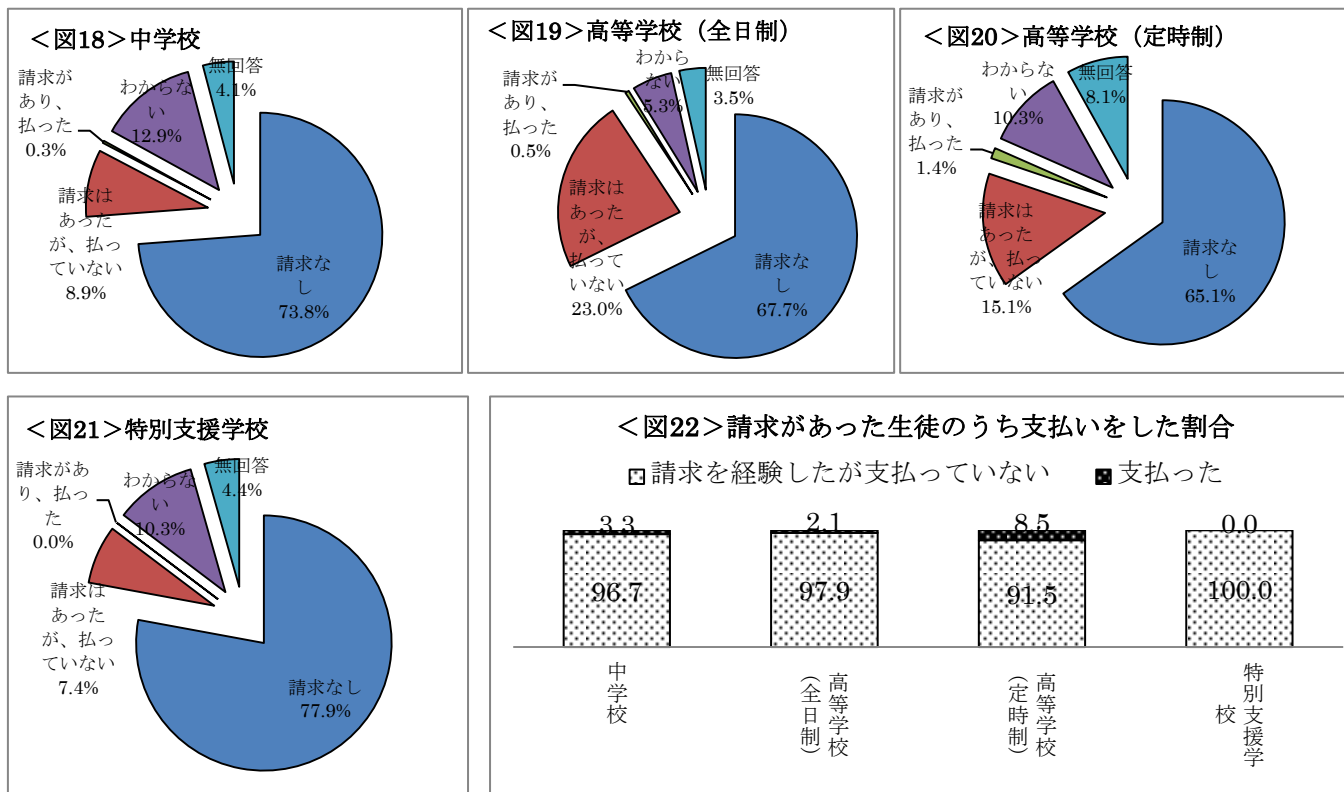
(7) 保護者と携帯電話・スマートフォンの使用について、ルールを定めている割合



保護者と約束や「ルールを定めている割合」は、校種が進むにつれて、低くなっています。

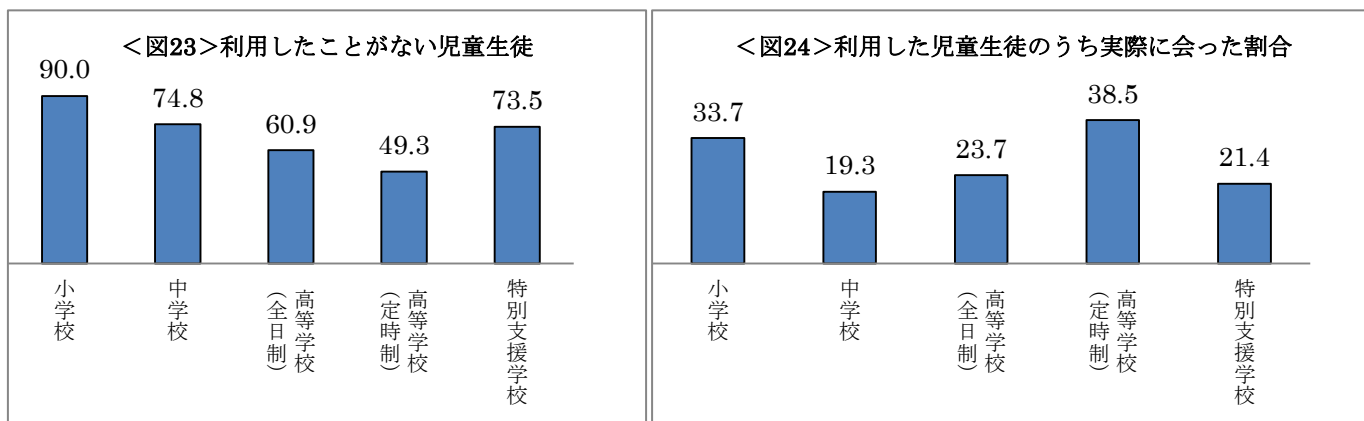
(8) 架空請求やワンクリック詐欺に対して料金を支払った割合

※小学生の調査には、該当する質問がないため、表記していません。



携帯電話・スマートフォンを所持している生徒が、「架空請求やワンクリック詐欺」の請求を経験した割合は、中学校9.2%、高等学校全日制23.5%、定時制16.5%、特別支援学校7.4%であり、請求を経験した生徒のうち、支払った割合は中学校3.3%、高等学校全日制2.1%、定時制8.5%となっています。

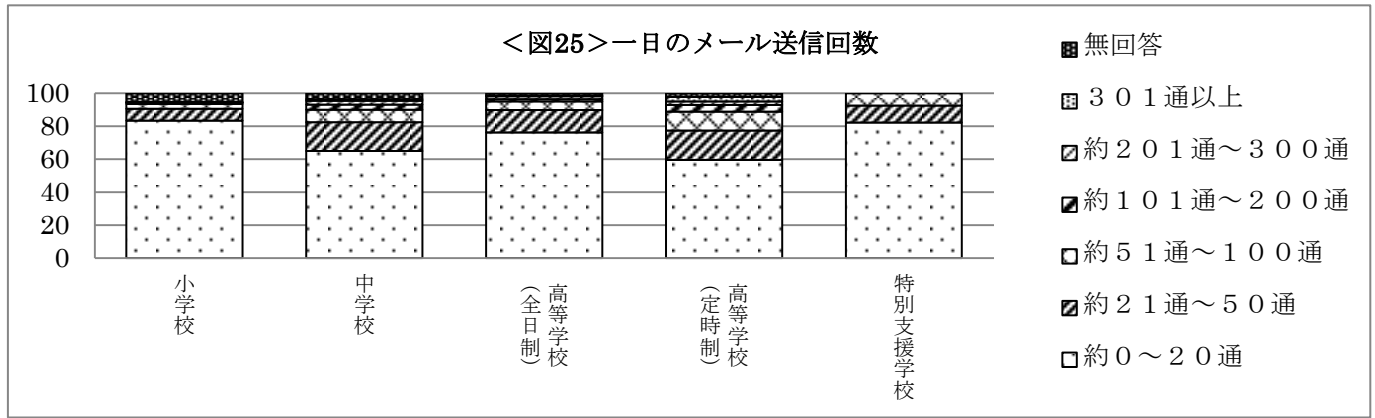
(9) 交流サイトや出会い系サイトの利用



児童生徒が「交流サイトや出会い系サイト」を利用していない割合は、校種が進むにつれて低くなっています。

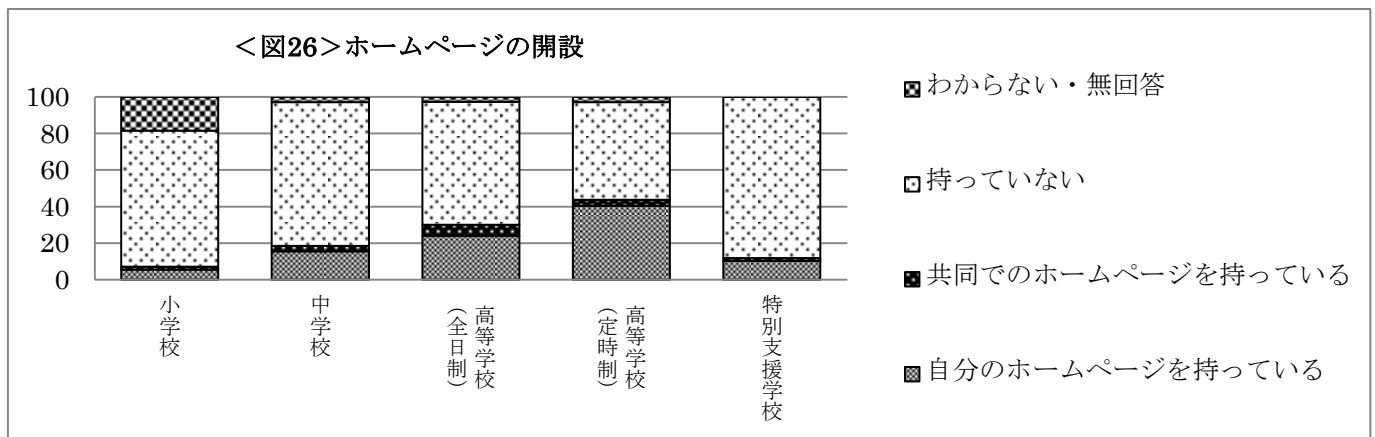
利用した児童生徒のうち実際に会った割合は、高等学校（定時制）が38.5%で最も高く、小学校が33.7%、高等学校（全日制）23.7%の順で高くなっています。

(10) 一日にメール送信をする回数



児童生徒が「一日にメール送信をする回数」は、0～20通がすべての校種で最も多く、次いで、21～50通が多くなっています。

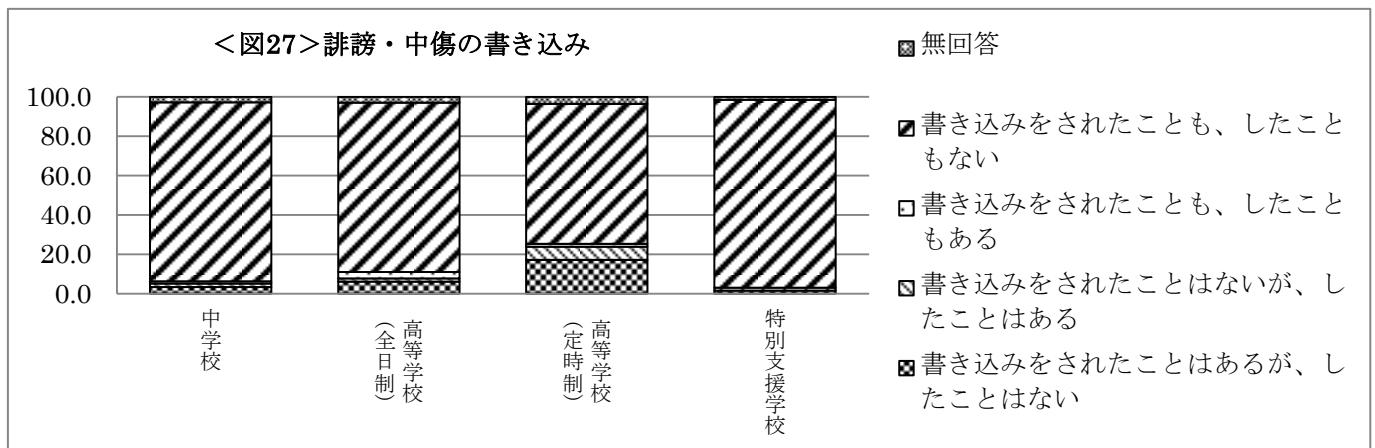
(11) ホームページ〔ブログ・プロフ等を含む〕の開設



児童生徒の半数以上が自分又は共同のホームページを持っておらず、ホームページを開設している割合は、校種が進むにつれて高くなっています。

(12) 掲示板サイト等での誹謗、中傷等の書き込み

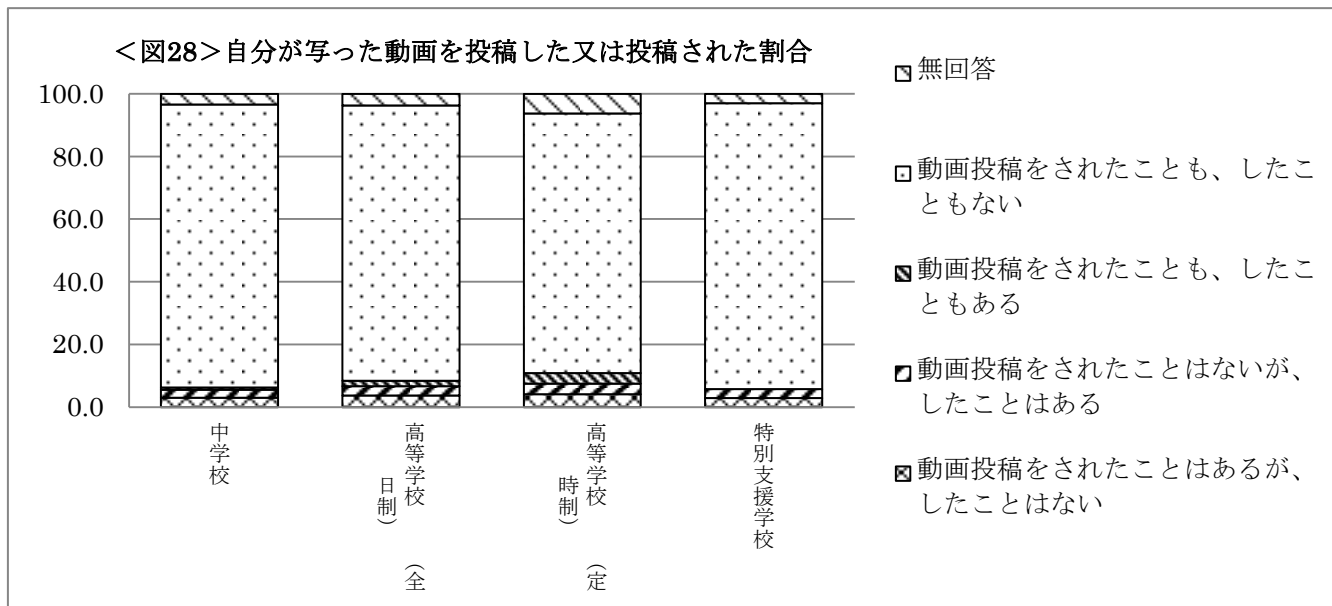
※小学生の調査には、該当する質問がないため、表記していません。



児童生徒のほとんどが書き込みをされたことも、したこともなく、書き込みを「された」「した」の経験がある割合は、高等学校の定時制が最も高くなっています。

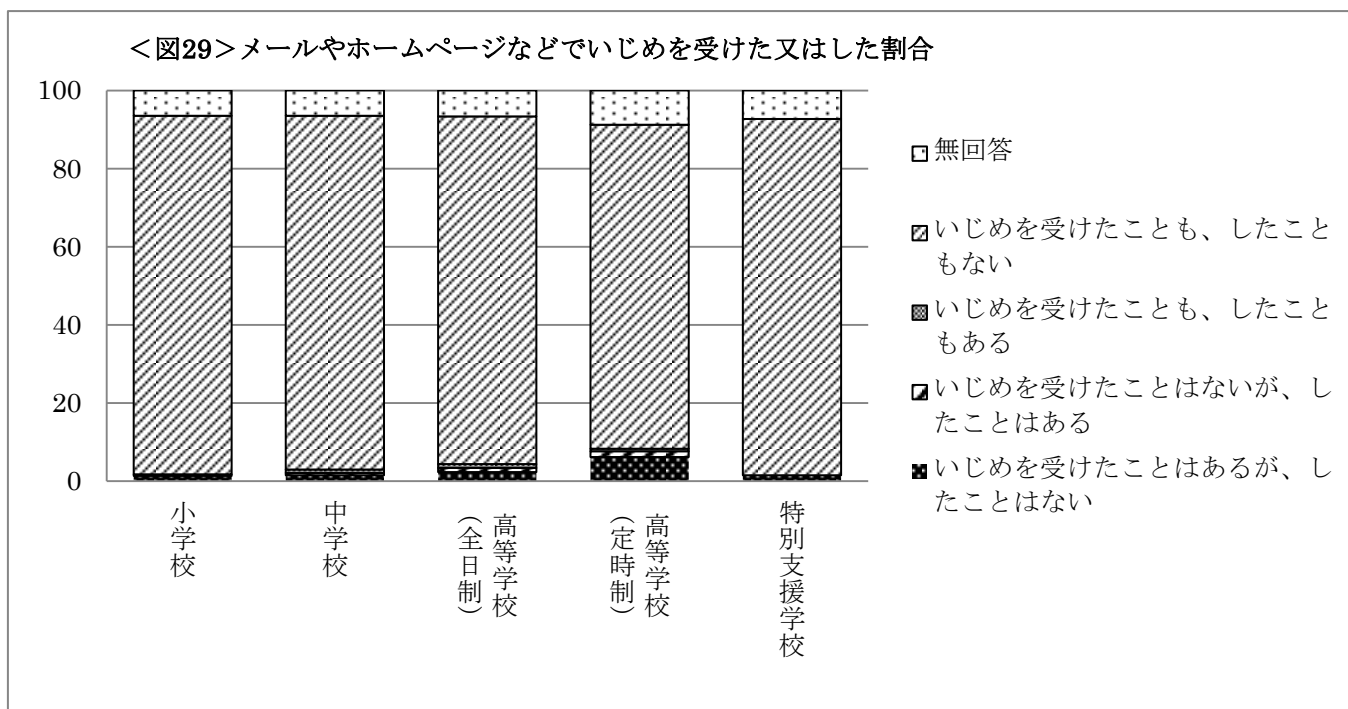
(13) 動画投稿サイト等で自分が写った動画の投稿

※小学生の調査には、該当する質問がないため、表記していません。



各校種において、「動画投稿をされたことも、したこともない」児童生徒がほとんどであり、動画投稿を「された」「した」の中では、高等学校定時制が最も高くなっています。

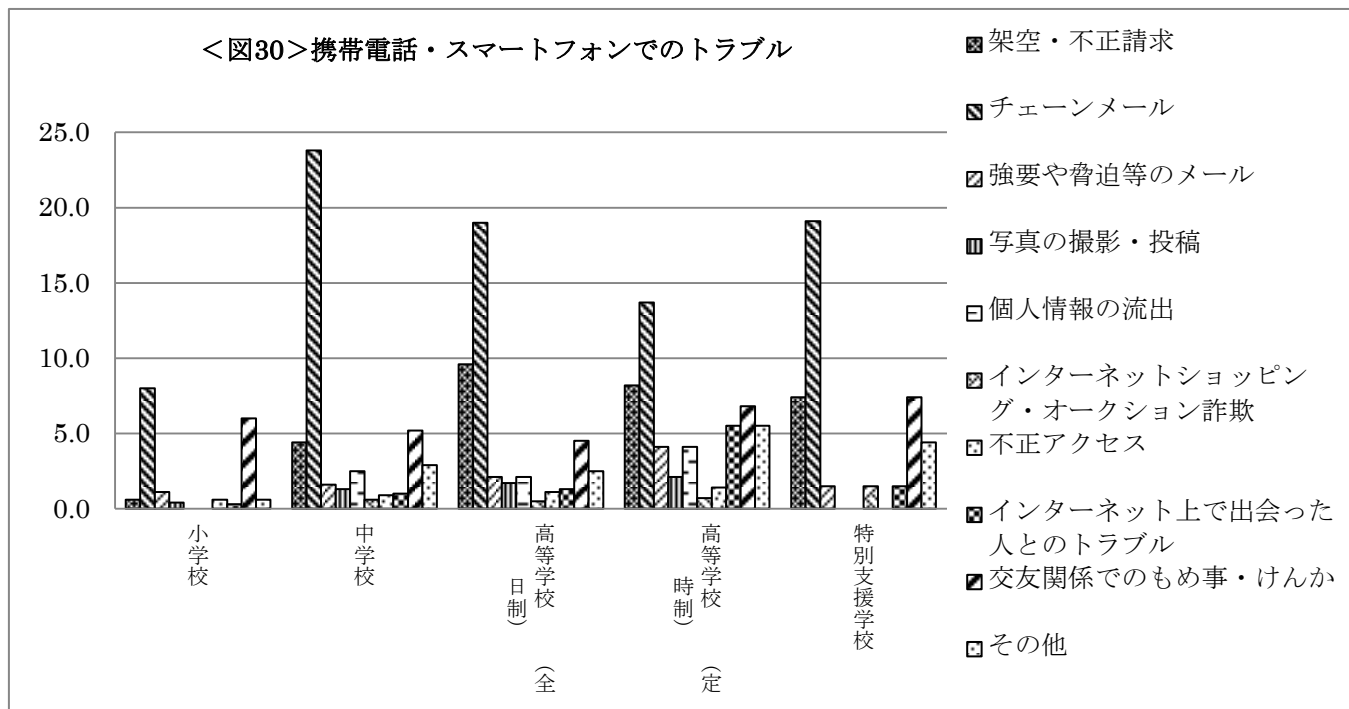
(14) メールやホームページなどでのいじめ



各校種において、「いじめを受けたことも、したこともない」児童がほとんどであり、いじめを「受けた」「した」の中では、高等学校定時制が最も高くなっています。

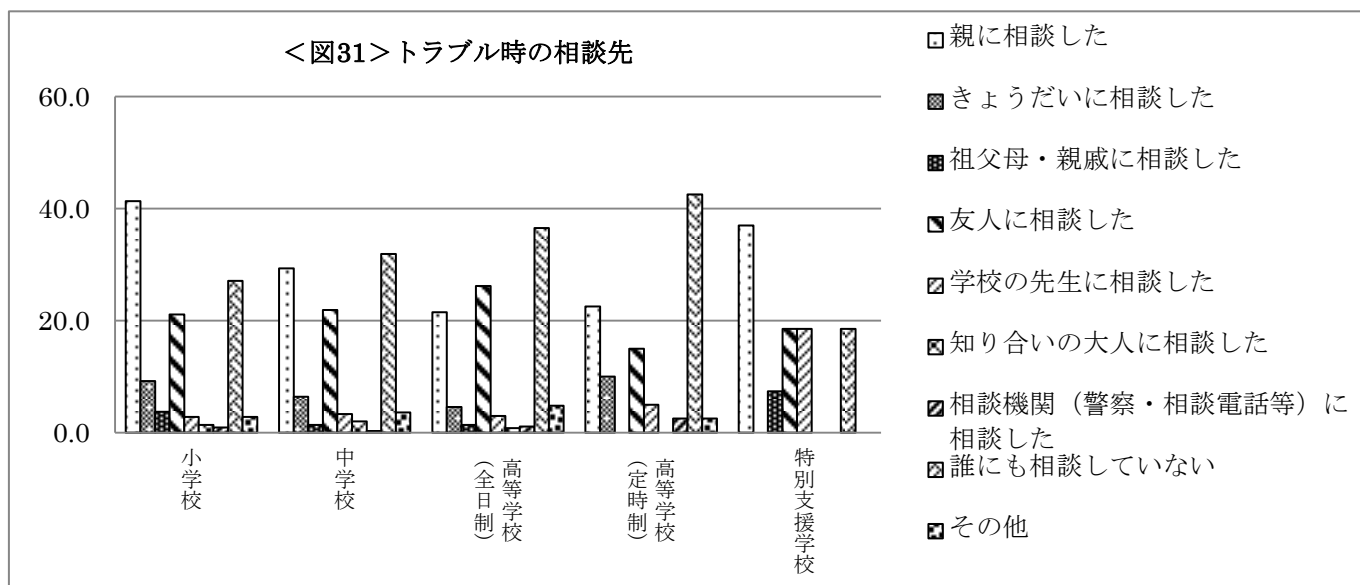
(15) 携帯電話・スマートフォンでのトラブル

※小学生の質問には、「個人情報の流出」の選択肢が存在しません。



「携帯電話・スマートフォンでのトラブル」は、各校種において、「チェーンメール」の割合が最も高く、次いで、小学校・中学校では「交友関係でののもめ事・けんか」、高等学校は「架空・不正請求」、特別支援学校は「架空・不正請求」「交友関係でののもめ事・けんか」が高くなっています。

(16) トラブル等の発生における相談

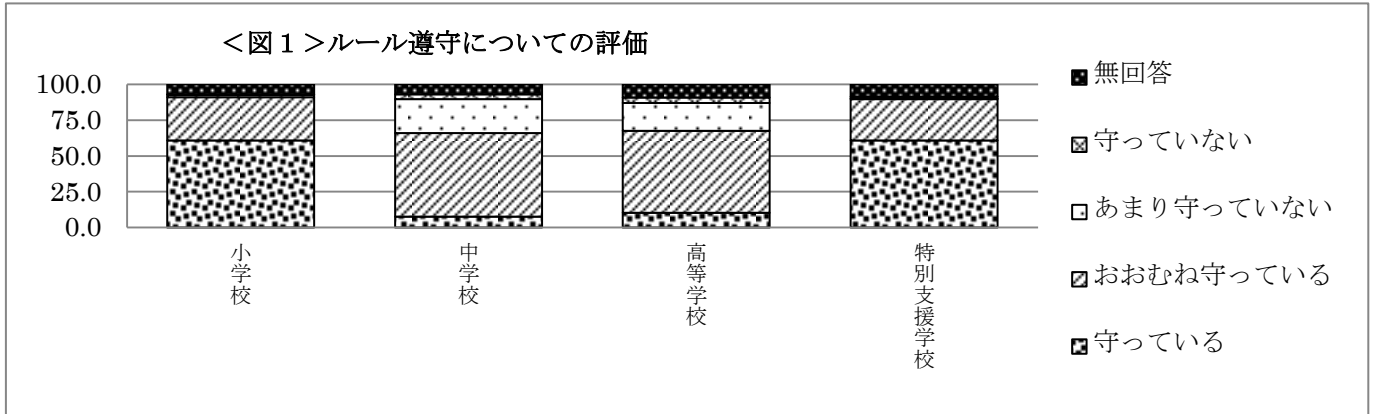


携帯電話・スマートフォンでの「トラブルの相談先」は、小学校、特別支援学校では「親に相談」の割合が、中学校・高等学校は、「誰にも相談していない」割合が最も高くなっています。

【教員】

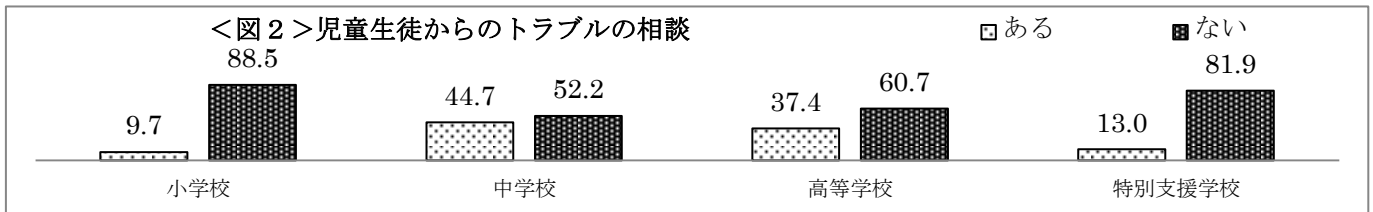
※設問によっては、無回答や重複回答がありますので調査数の合計と一致しない場合があります。
 ※数値は、%で算出しています。

(1) 携帯電話・スマートフォンの持ち込みを許可している児童生徒の教員から見たルール遵守の状況

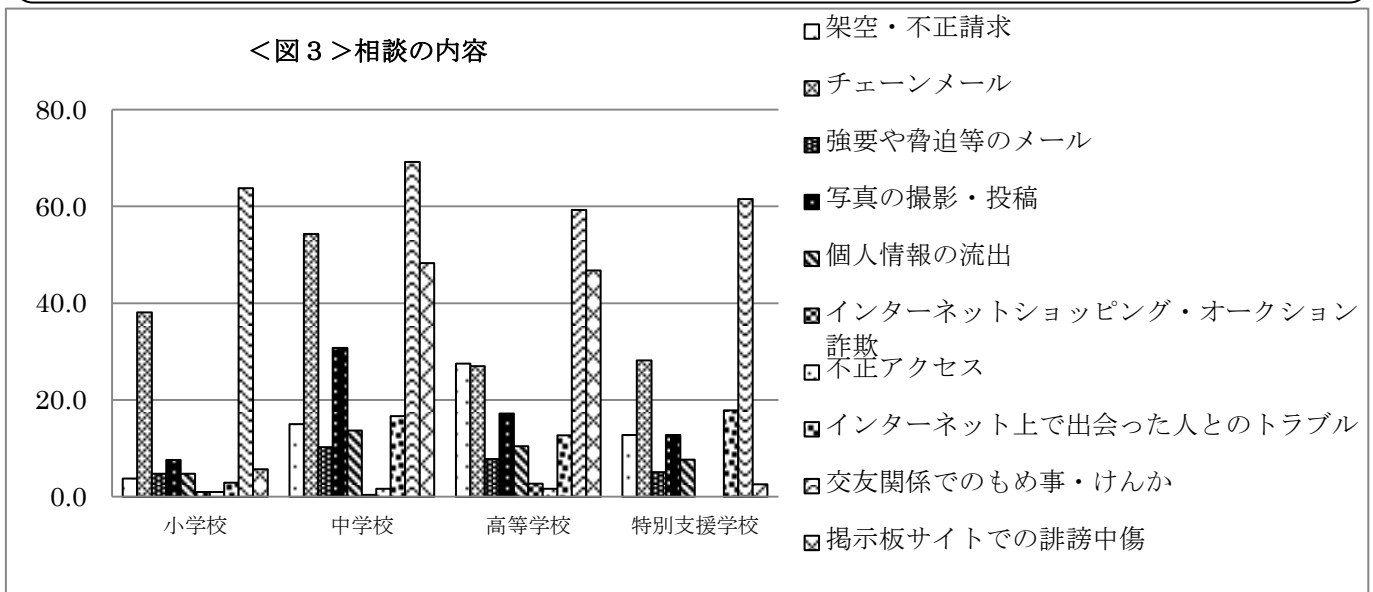


児童生徒が学校に携帯電話・スマートフォンを持ち込むに当たり、小学校、特別支援学校では、学校の定めるルールを「守っている」の割合が高く、中学校、高等学校では、「おおむね守っている」の割合が最も高くなっています。

(2) 児童生徒からのトラブルの相談及び内容

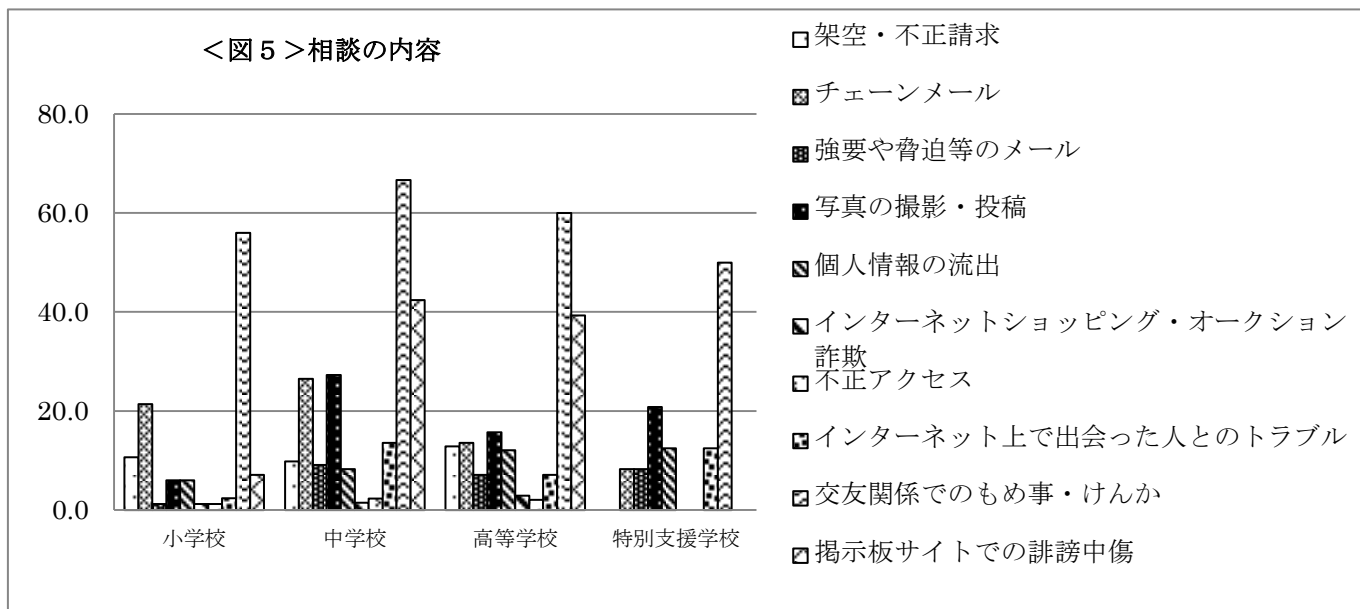
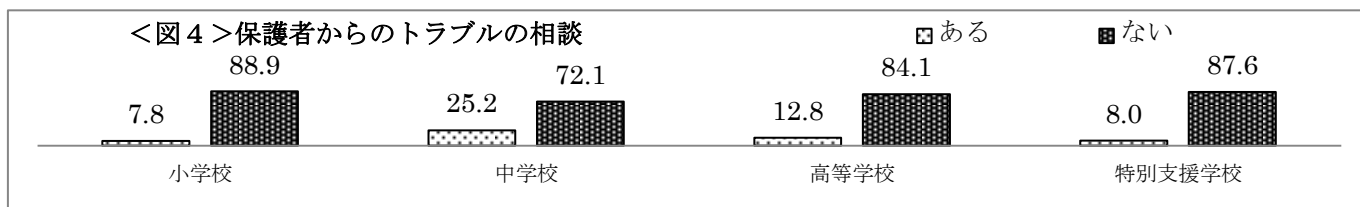


児童生徒から「トラブルの相談」を受けた割合は、中学校が最も高く、次いで、高等学校が高くなっています。



相談の内容については、すべての校種で「交友関係でのもめ事・けんか」の相談率が最も高く、次いで、小学校・中学校・特別支援学校では「チェーンメール」、高等学校は「掲示板サイトでの誹謗中傷」が高くなっています。

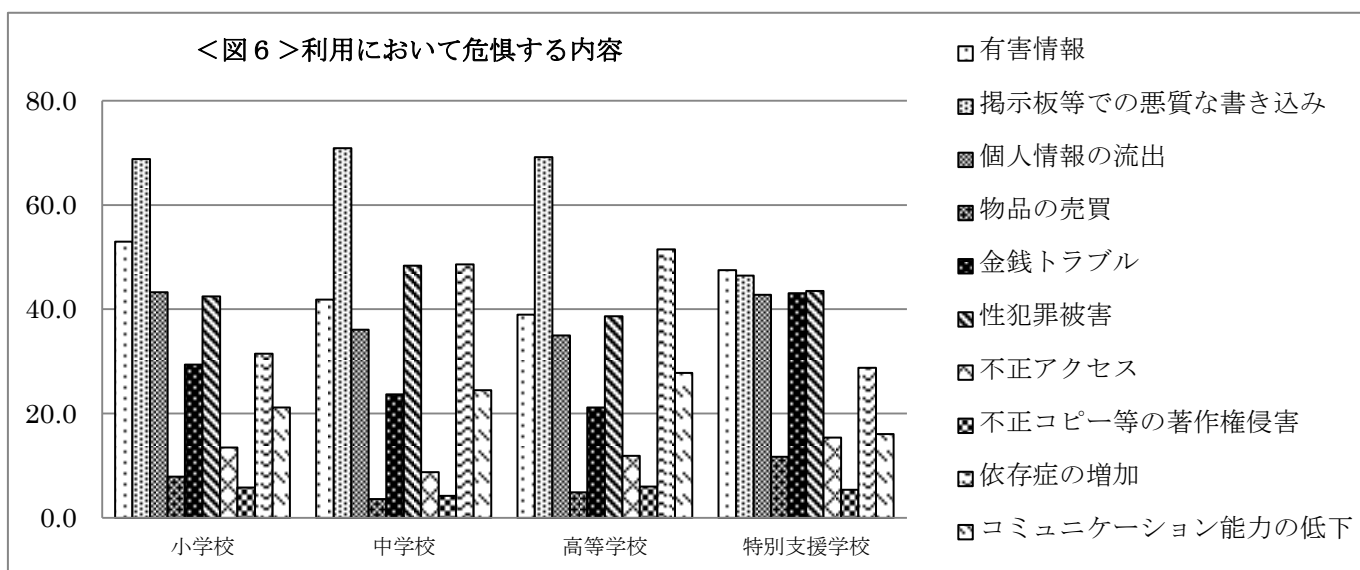
(3) 保護者からのトラブルの相談及び内容



保護者から児童生徒における「トラブルの相談」を受けた割合は、中学校が最も高く、次いで、高等学校が高くなっています。

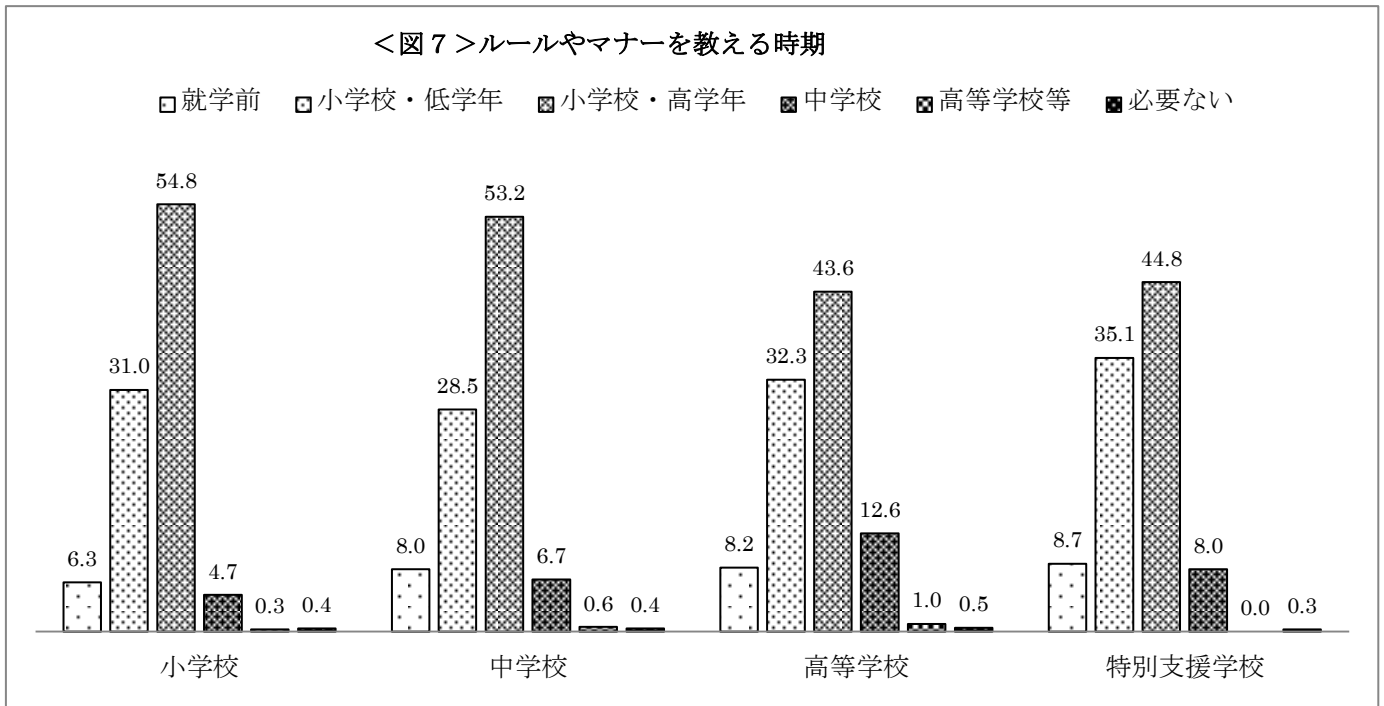
相談の内容については、すべての校種で「交友関係でのめめ事・けんか」の相談率が最も高く、次いで、小学校は「チェーンメール」、中学校・高等学校では「掲示板サイトでの誹謗中傷」、特別支援学校では「写真の撮影・投稿」が高くなっています。

(4) 児童生徒の携帯電話・スマートフォンの利用において、危惧する内容



利用において、「危惧する内容」は、小学校・中学校・高等学校で「掲示板等での悪質な書き込み」が最も高く、次いで、小学校は「有害情報」、中学校では「性犯罪被害」「依存症の増加」、高等学校では「依存症の増加」が高くなっています。特別支援学校では「有害情報」が最も高く、次いで、「掲示板等での悪質な書き込み」が高くなっています。

(5) 携帯電話・スマートフォンの利用について、児童生徒にルールやマナーを教える時期

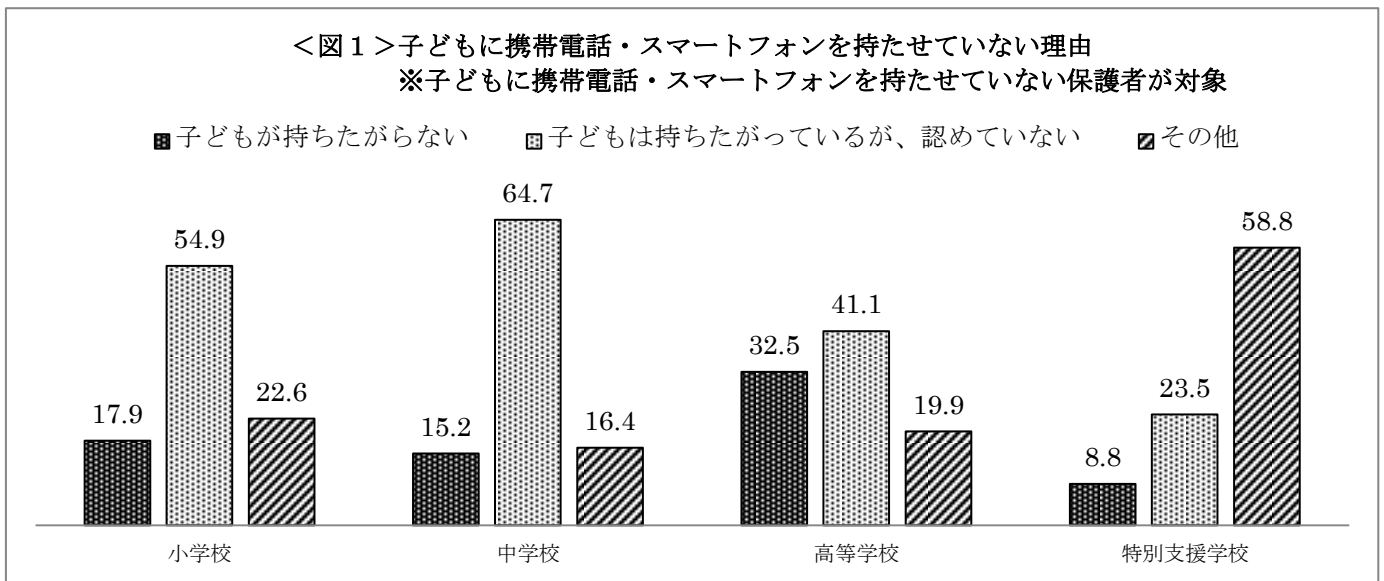


「ルールやマナーを教える時期」については、すべての校種で、「小学校の高学年」が最も高く、次いで、「小学校の低学年」が高くなっています。

【保護者】

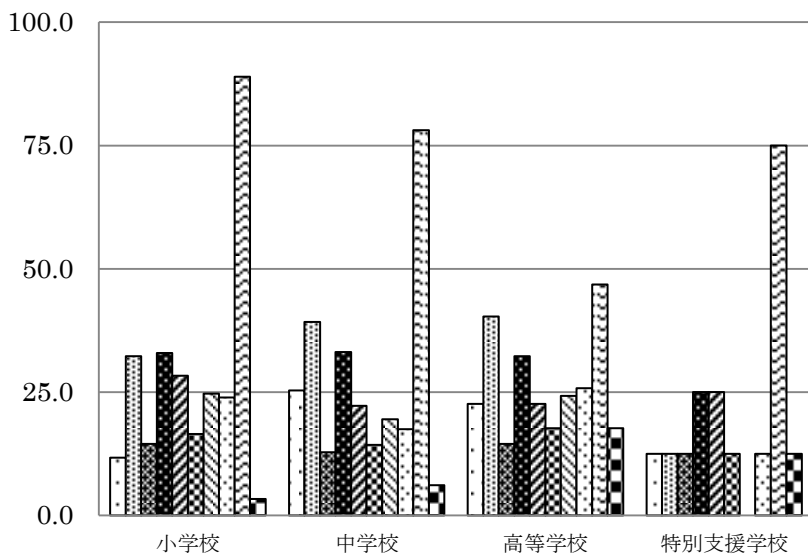
※設問によっては、無回答や重複回答がありますので調査数の合計と一致しない場合があります。
 ※数値は、%で算出しています。

(1) 子どもに携帯電話・スマートフォンを持たせていない理由



＜図2＞子どもは持ちたがっているが、認めていない理由

※子どもは持ちたがっているが、認めていない保護者が対象



□ 学力が低下することへの不安から

▣ 金銭的理由から

■ 友だち関係がわからなくなるから

■ 携帯電話を持たせることが子どもの安全につながると思えないから

■ わいせつ画像や残虐な画像等の有害情報を見せたくないから

■ 傷つくような書き込みをするのが心配だから

■ 出会い系サイト等の性に関する被害に遭わせたくないから

■ 名前や住所、電話番号などの個人情報を書き込むことへの不安から

■ 現在の年齢ではまだ不必要だと考えているから

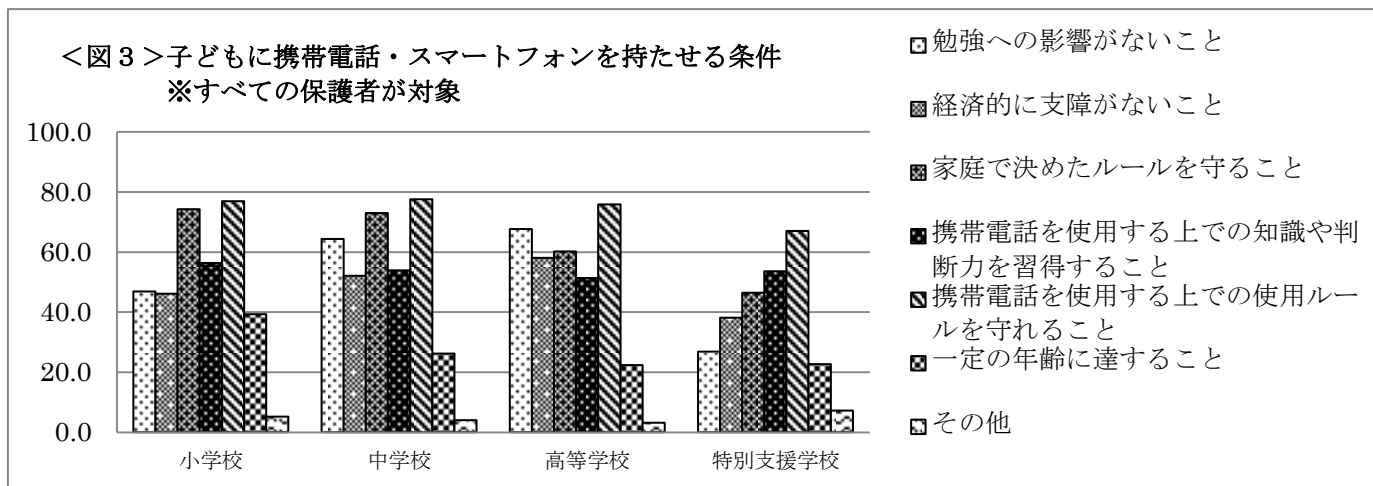
■ その他

「子どもに携帯電話・スマートフォンを持たせていない理由」は、小学校・中学校・高等学校では、「子どもは持ちたがっているが認めていない」、特別支援学校は「その他」が最も高くなっており、小学校・中学校では、「子どもは持ちたがっているが認めていない」の割合が半数以上になっています。

また、高等学校では「子どもが持ちたがらない」が他の校種より高くなっています。

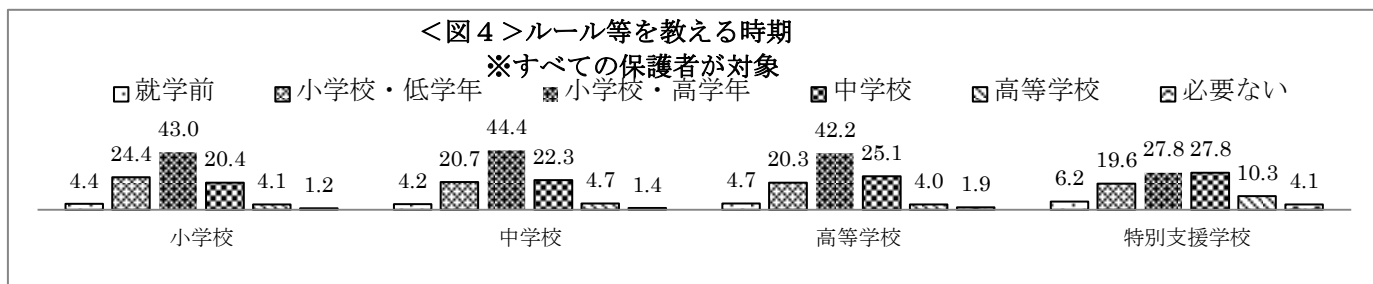
「子どもは持ちたがっているが、認めていない理由」としては、すべての校種で「現在の年齢では不必要だと考えている」が最も高くなっています。

(2) 子どもが携帯電話・スマートフォンを持つ条件として必要なこと



すべての校種で「携帯電話を使用する上での使用ルールを守れること」が最も高く、次いで、小学校・中学校では「家庭で決めたルールを守ること」、高等学校は「勉強への影響がないこと」、特別支援学校は「携帯電話を使用する上での知識や判断力を習得すること」が高くなっています。

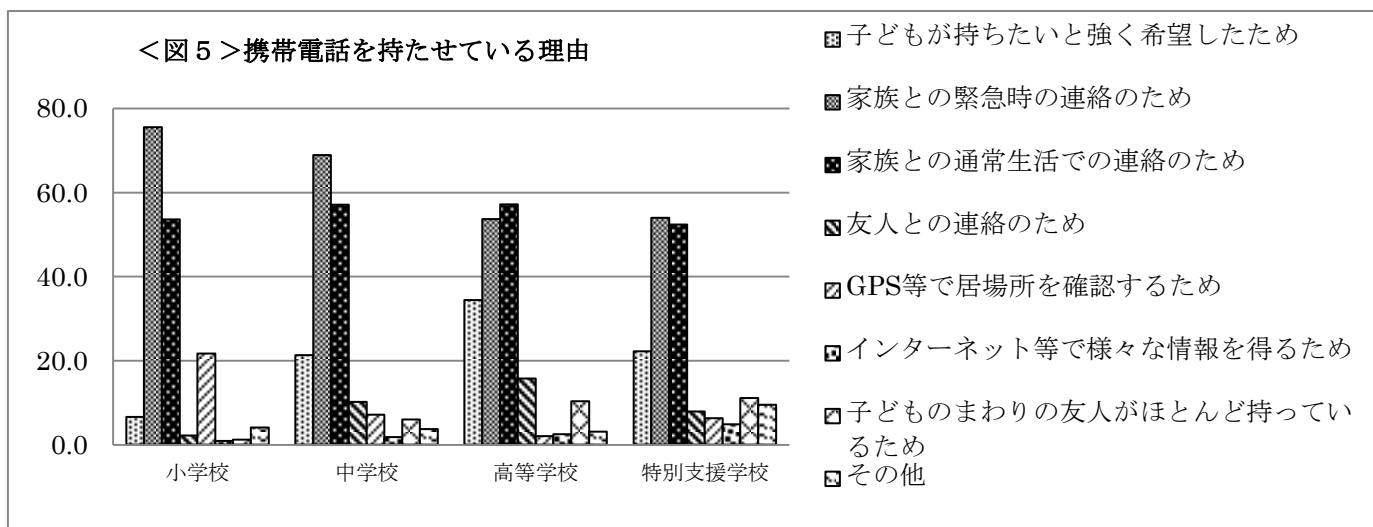
(3) 子どもに携帯電話・スマートフォン等の使用について、ルールやマナーを教える時期



特別支援学校以外の校種では、「小学校の高学年」が最も高く、特別支援学校においても「中学校」に並んで「小学校の高学年」が最も高くなっています。

(4) 子どもに携帯電話を持たせている理由

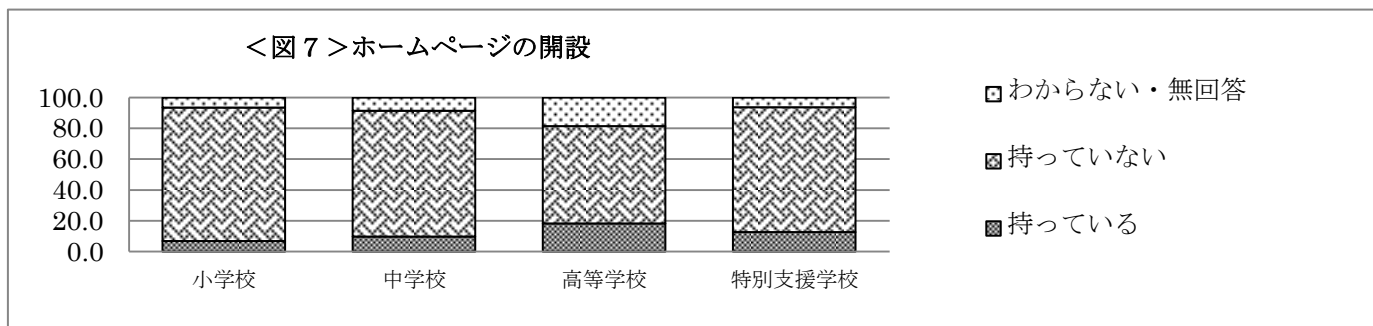
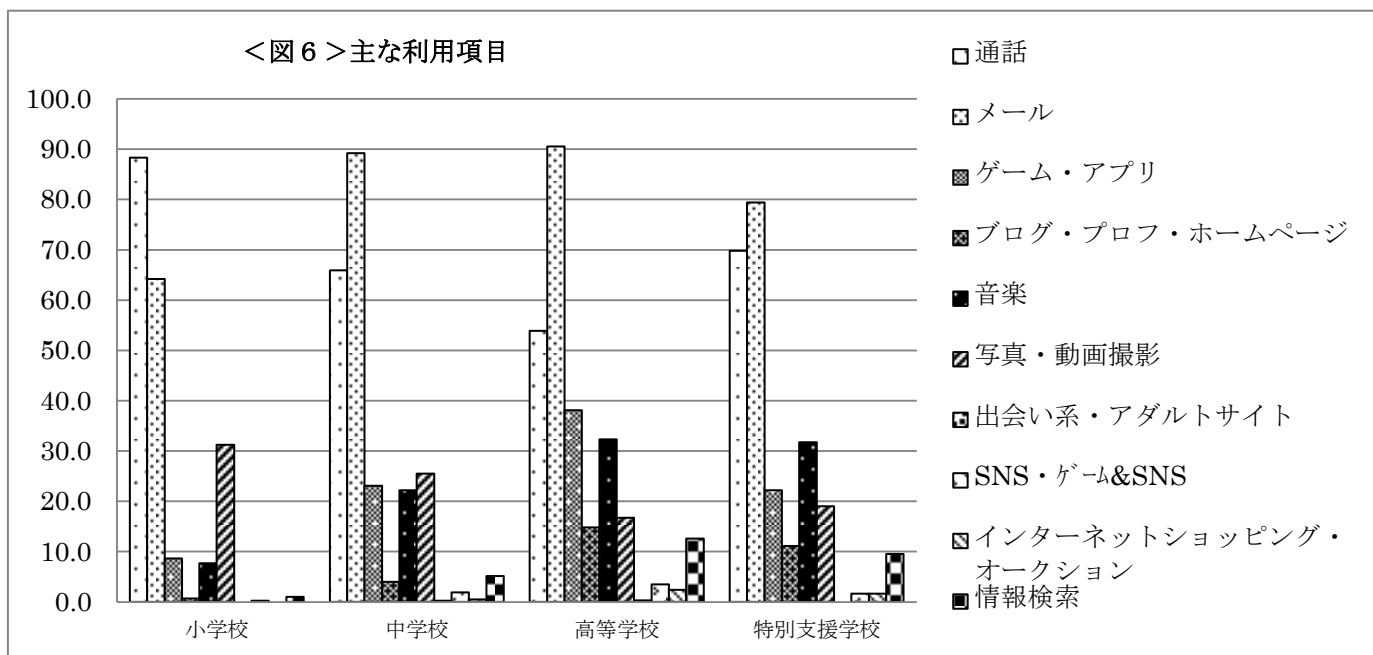
※これ以後の内容は、子どもに携帯電話・スマートフォンを持たせている保護者が対象



すべての校種で「家族との緊急時の連絡」又は「家族との通常生活での連絡」が最も高くなっています。

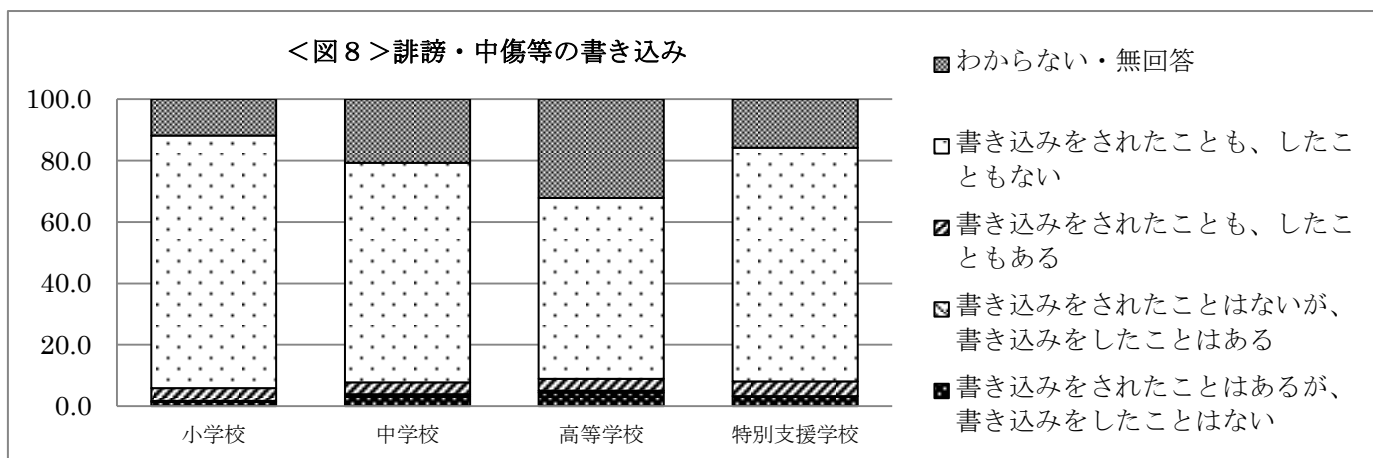
また、「子どもが持ちたいと強く希望した」は校種が進むにつれて、増加しています。

(5) 保護者が認識している子どもの携帯電話・スマートフォンの利用状況

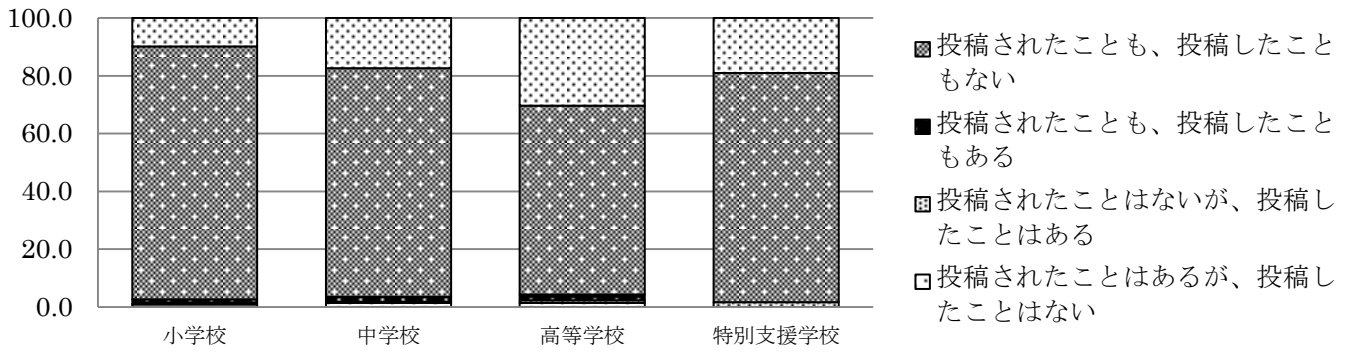


主な「利用状況」は、すべての校種において「通話」又は「メール」の認識が最も高くなっています。

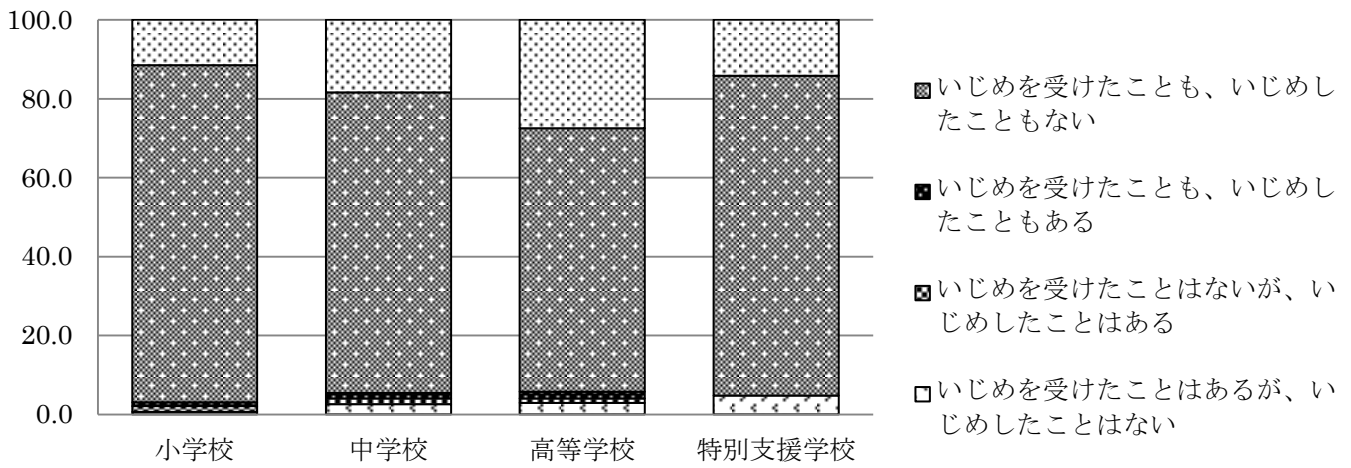
ホームページの開設については、すべての校種において「持っていない」の認識が最も高くなっており、「持っている」及び「わからない」は、校種が進むにつれて高くなっています。



<図9>動画の投稿



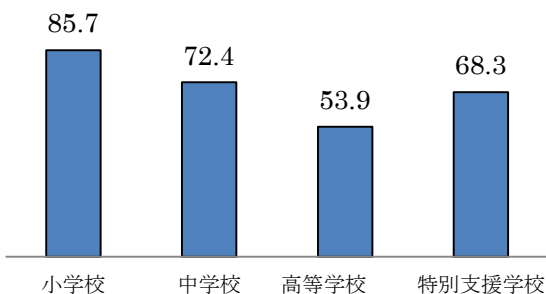
<図10>いじめ



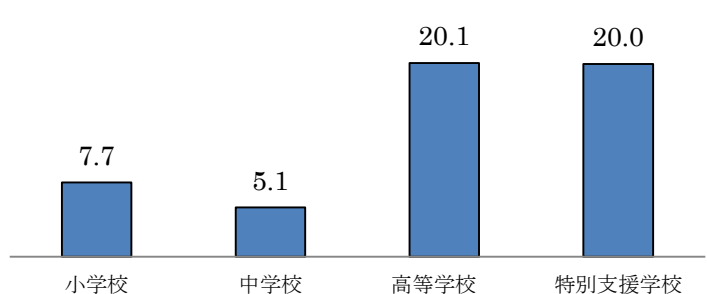
子どもが「誹謗・中傷等の書き込み」「動画の投稿」「いじめ」を「されたことも、したこともない」と認識している保護者が高いが、校種が進むにつれて、「わからない・無回答」が高くなっています。

(6) 保護者が認識している子どもの交流サイト又は出会い系サイトの利用

<図11>利用していない

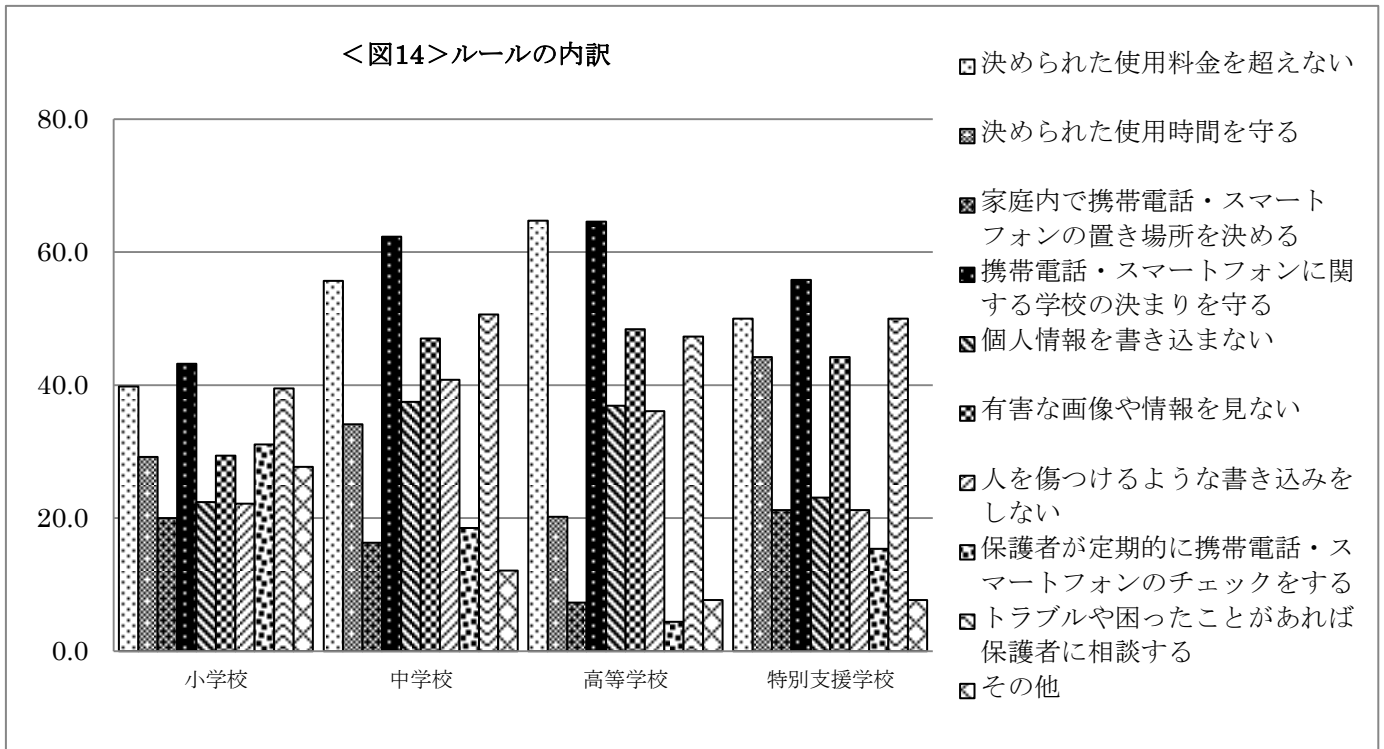
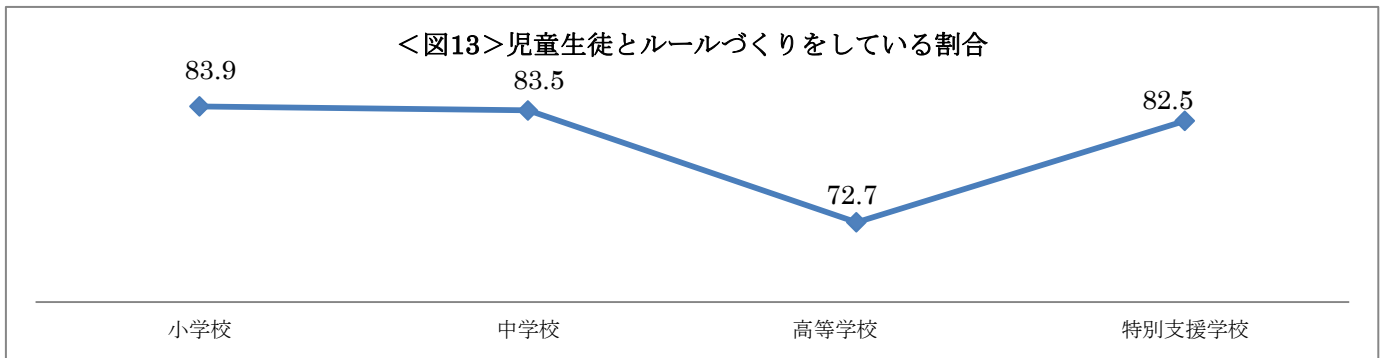


<図12>利用した者のうち実際に会った



子どもが「交流サイト又は出会い系サイト」を利用していないと認識している保護者は、小学校が最も高く、校種が進むにつれて低くなっています。
 利用した者のうち実際に会ったと認識している保護者は、高等学校・特別支援学校が2割で、他の校種より高くなっています。

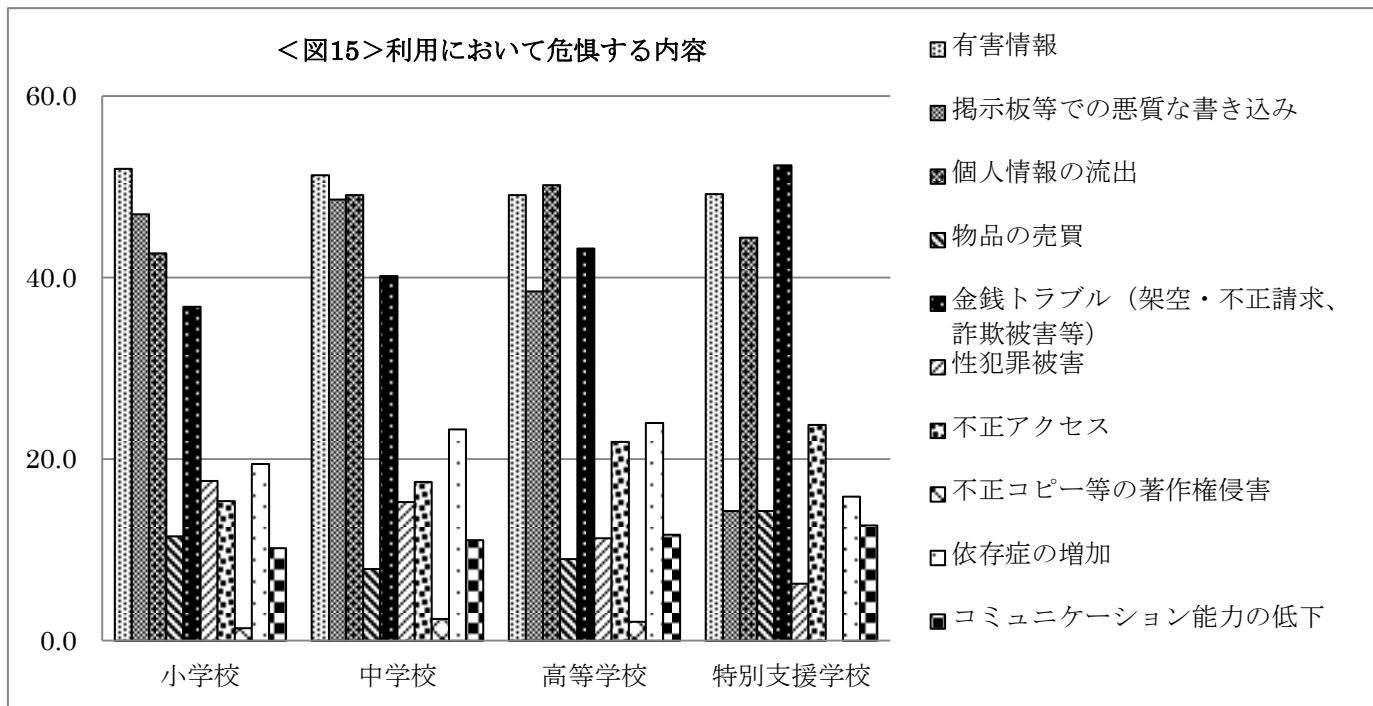
(7) 児童生徒と携帯電話・スマートフォンの使用についてのルールづくり



「ルールづくり」をしている割合は、小学校・中学校・特別支援学校では8割を超えており、高等学校は他の校種より約10ポイント低くなっています。

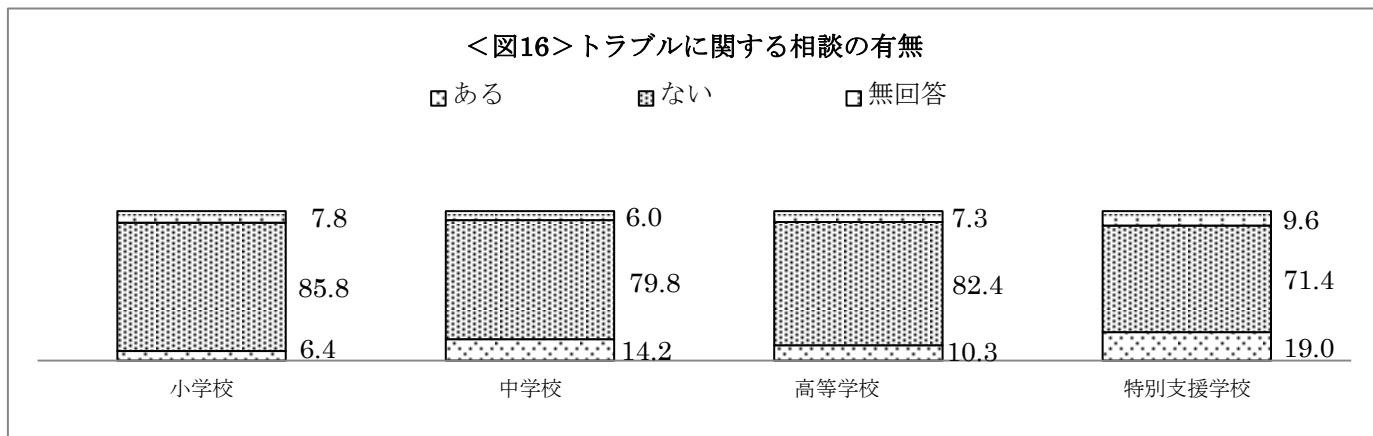
ルールの内訳は、小学校・中学校・特別支援学校では「携帯電話・スマートフォンに関する学校の決まりを守る」が最も高くなっており、高等学校は「決められた使用料を超えない」「携帯電話・スマートフォンに関する学校の決まりを守る」が高くなっています。

(8) 子どもの携帯電話・スマートフォンの利用において、危惧する内容

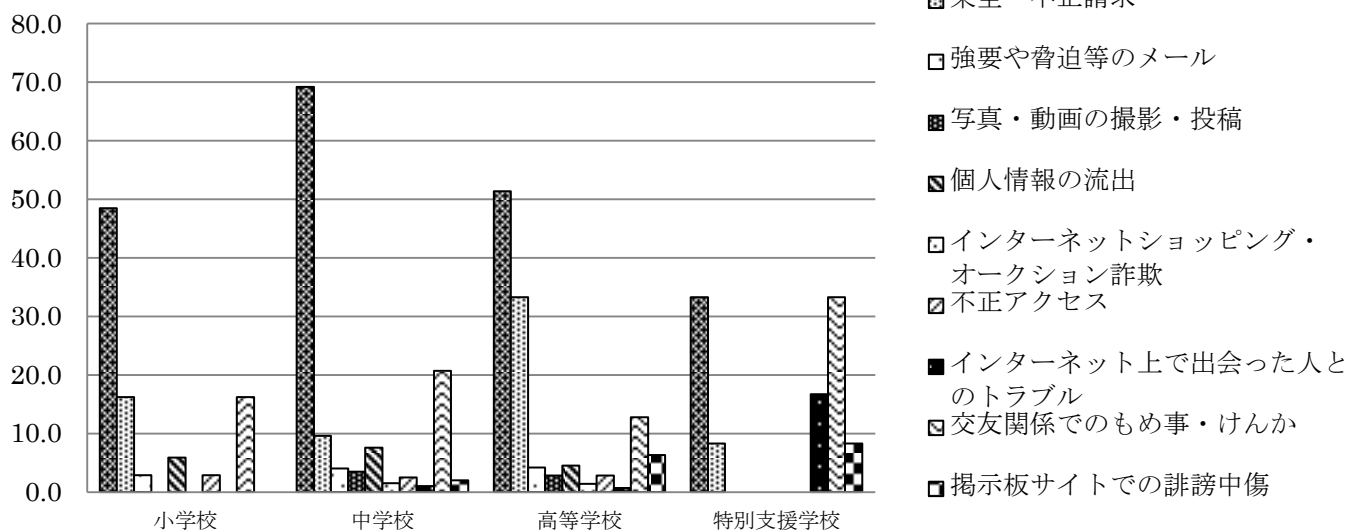


利用において、「危惧する内容」は、すべての校種で「有害情報」「個人情報の流出」「金銭トラブル」が高く、特別支援学校以外の校種では「掲示板等での悪質な書き込み」も高くなっています。

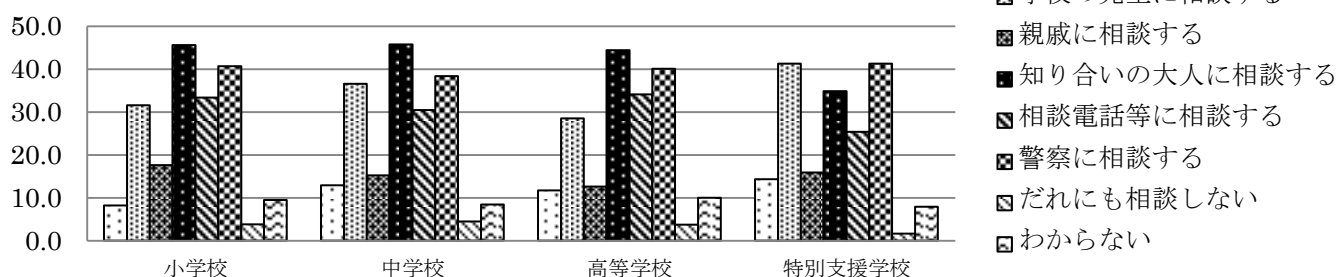
(9) 携帯電話・スマートフォンのトラブルに関する相談



＜図17＞相談内容の内訳
※子どもから相談があった保護者が対象



＜図18＞相談を受けた際の対応
※子どもが携帯電話・スマートフォンを持っている保護者が対象

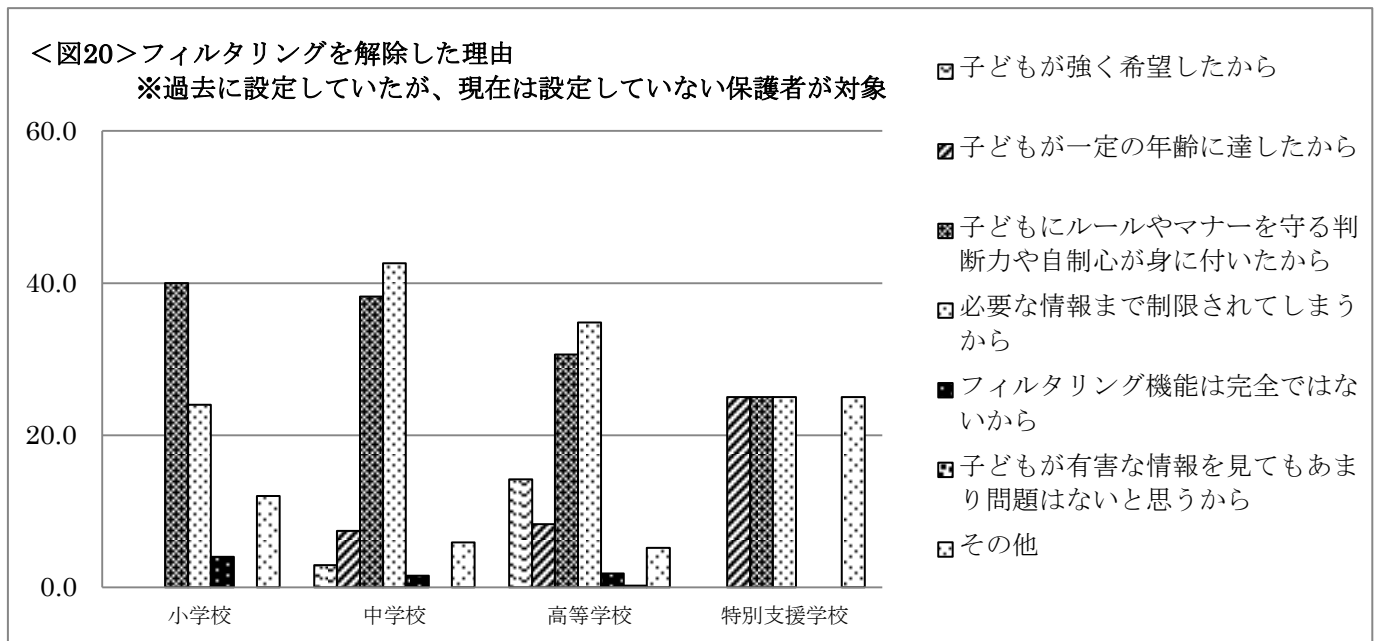
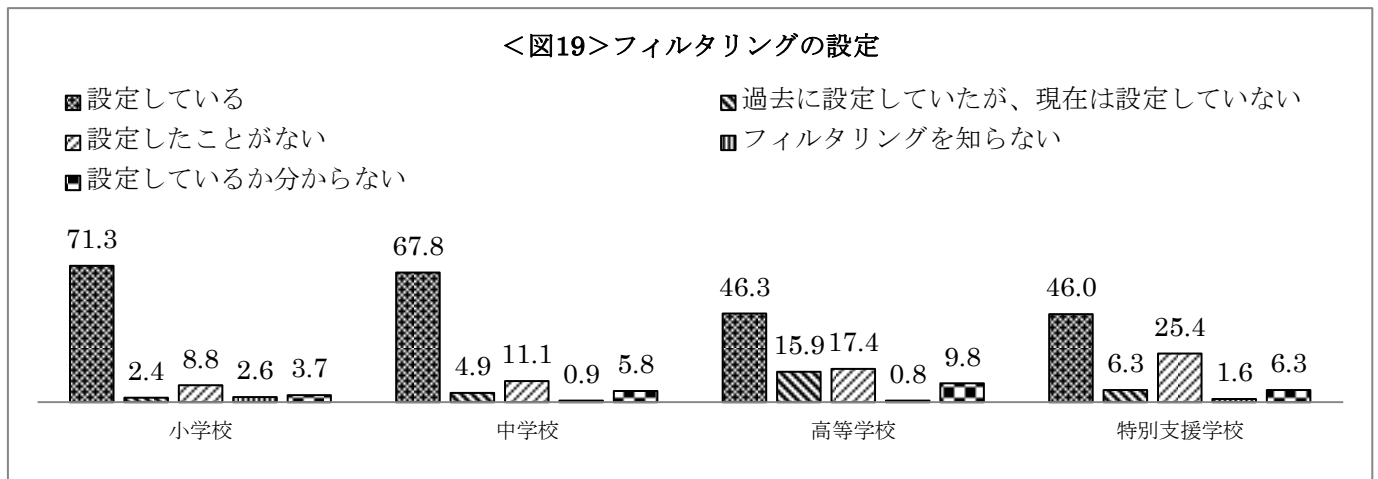


子どもから保護者への「トラブルに関する相談」は、特別支援学校の19.0%が最も高く、中学校14.2%、高等学校10.3%であり、小学校は6.4%で最も低くなっています。

相談内容は、特別支援学校では「チェーンメール」「交友関係でのもめ事・けんか」が最も高く、他の校種でも「チェーンメール」が最も高くなっています。

子どもから相談を受けた際の対応としては、小学校・中学校・高等学校では「知り合いの大人に相談する」が最も高く、特別支援学校は「学校の先生に相談する」「警察に相談する」が最も高くなっています。

(10) 子どもの携帯電話・スマートフォンのフィルタリングの設定状況



「フィルタリングの設定」は、校種が進むにつれて低くなっており、高等学校・特別支援学校では、半数を下回っています。

過去にフィルタリングを設定していたが、現在は設定していない理由としては、「子どもにルールやマナーを守る判断力や自制心が身に付いたから」「必要な情報まで制限されてしまうから」などがすべての校種で高くなっています。